

(様式第10)

浜医大医第4号

厚生労働大臣 殿

令和 7年 10月 3日  
開設者名 国立大学法人浜松医科大学  
学長 渡邊 裕司

### 浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

#### 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山一丁目20番1号
氏名	国立大学法人浜松医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名称

浜松医科大学医学部附属病院
---------------

#### 3 所在の場所

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山一丁目20番1号
電話( 053 ) 435 — 2111

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科	2消化器内科
5神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	
呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、リウマチ内科については、それぞれ他の診療科において医療を提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科						有
外科と組み合わせた診療科名						
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科	
	<input type="radio"/> 5血管外科	<input checked="" type="radio"/> 6心臓血管外科			7内分泌外科	<input type="radio"/>
診療実績						
呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科については、それぞれ他の診療科において医療を提供している。						

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科	<input type="radio"/> 2小児科	<input type="radio"/> 3整形外科	<input type="radio"/> 4脳神経外科
<input type="radio"/> 5皮膚科	<input type="radio"/> 6泌尿器科	<input type="radio"/> 7産婦人科	<input type="radio"/> 8産科
<input type="radio"/> 9婦人科	<input type="radio"/> 10眼科	<input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/> 12放射線科
<input type="radio"/> 13放射線診断科	<input type="radio"/> 14放射線治療科	<input type="radio"/> 15麻酔科	<input type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科						有
歯科と組み合わせた診療科名						
	1小児歯科		2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外科	
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2神経科	3リハビリテーション科	4形成外科	5病理診断科
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37				576	613

(単位:床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	480	93	507.7
歯科医師	9	1	9.2
薬剤師	53	0	53
保健師	0	1	0.3
助産師	41	3	42.9
看護師	770	34	793
准看護師	1	3	3
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	13	1	13.7

職種	員数
看護補助者	31
理学療法士	31
作業療法士	16
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	28
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	51

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	74	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	13	
その他の技術員	75	
事務職員	199	
その他の職員	15	

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	61	眼科専門医	8
外科専門医	41	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	11	放射線科専門医	13
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	26
産婦人科専門医	22	救急科専門医	4
合計			273

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 竹内 裕也 ) 任命年月日 令和 7 年 4 月 1 日

- ・令和2年4月1日から令和7年3月31日まで 医療安全管理室長(リスクマネジメント担当副病院長)
- ・令和7年4月1日より医療安全管理委員会委員長(病院長)

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	488.5 人	7.5 人	496 人
1日当たり平均外来患者数	1415.4 人	68.2 人	1483.5 人
1日当たり平均調剤数	842.94 剤		
必要医師数	137.3 人		

必要歯科医師数	6	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	321	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	12 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	316.5 m <sup>2</sup> 2	病床数 台	24	床
医薬品情報 管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名		21		m <sup>2</sup>
化学検査室	413.17 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学・免疫全自動分析装置・全自動血液検査システム		
細菌検査室	174.7 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌同定感受性装置・自動血液培養装置		
病理検査室	177.1 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動固定包埋装置・パラフィン包埋ブロック作成装置・ミクロトーム・自動染色装置・Thinprep5000		
病理解剖室	46 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	排水滅菌システム・固定液作成装置・解剖台		
研究室	541.3 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床情報検索データベースシステム		
講義室	195 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	100 人
図書室	61.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約10.000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.1 %	逆紹介率	75.9 %
A:紹介患者の数		14,125	人
B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,225	人
C:救急用自動車によって搬入された患者の数		3,144	人
D:初診の患者の数		17,429	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況

熊田 恵介	岐阜大学医学部附属病院	<input type="radio"/>	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
坪佐 恒宏	静岡県立静岡がんセンター	<input type="radio"/>	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
小島 崇宏	大阪A & M法律事務所	<input type="radio"/>	法律に関する識見を有する者	有	1
大磯 義一郎	浜松医科大学	<input type="radio"/>	法律に関する識見を有する者	有	1
左右田 泰丈	曹洞宗 瑞生寺		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
浜松医科大学医学部附属病院ホームページにて公表 <a href="https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/iryouannzenkansa.html">https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/iryouannzenkansa.html</a>	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
CYP2D6遺伝子多型検査	1人
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	1人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0人
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注)2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	5	67	多発性囊胞腎	40
2	筋萎縮性側索硬化症	18	68	黄色靭帯骨化症	18
3	脊髄性筋萎縮症	2	69	後縦靭帯骨化症	102
4	原発性側索硬化症	0	70	広範脊柱管狭窄症	6
5	進行性核上性麻痺	10	71	特発性大腿骨頭壞死症	61
6	パーキンソン病	168	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
7	大脑皮質基底核変性症	1	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
8	ハンチントン病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	22
9	神經有棘赤血球症	0	75	クッシング病	17
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	76	下垂体性ゴナドロピン分泌亢進症	0
11	重症筋無力症	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	43
12	先天性筋無力症候群	0	78	下垂体前葉機能低下症	151
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	15	80	甲状腺ホルモン不応症	1
15	封入体筋炎	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
16	クロウ・深瀬症候群	2	82	先天性副腎低形成症	0
17	多系統萎縮症	24	83	アジソン病	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	84	サルコイドーシス	73
19	ライソゾーム病	7	85	特発性間質性肺炎	99
20	副腎白質ジストロフィー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	26
21	ミトコンドリア病	5	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
22	もやもや病	12	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	45
23	プリオント病	0	89	リンパ脈管筋腫症	2
24	亜急性硬化解性全脳炎	0	90	網膜色素変性症	28
25	進行性多巣性白質脳症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
26	HTL-1関連脊髄症	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
27	特発性基底核石灰症	0	93	原発性胆汁性胆管炎	26
28	全身性アミロイドーシス	51	94	原発性硬化性胆管炎	7
29	ウルリッヒ病	0	95	自己免疫性肝炎	14
30	遠位型ミオパシー	0	96	クローン病	230
31	ペスレムミオパシー	1	97	潰瘍性大腸炎	270
32	自己貪食空胞性ミオパシー	0	98	好酸球性消化管疾患	5
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
34	神経線維腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
35	天疱瘡	16	101	腸管神経節細胞僅少症	0
36	表皮水疱症	0	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	13	103	CFC症候群	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	104	コステロ症候群	0
39	中毒性表皮壊死症	0	105	チャージ症候群	0
40	高安動脈炎	13	106	クリオピリン関連周期熱症候群	2
41	巨細胞性動脈炎	9	107	若年性特発性関節炎【旧: 全身型若年性特発性関節炎】	1
42	結節性多発動脈炎	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	35	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	14	110	ブラウ症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	16	111	先天性ミオパシー	3
46	悪性関節リウマチ	11	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
47	バージャー病	3	113	筋ジストロフィー	13
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	114	非ジストロフィー性ミオトニ症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	183	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	118	116	アトピー性脊髄炎	1
51	全身性強皮症	58	117	脊髄空洞症	2
52	混合性結合組織病	23	118	脊髄髓膜瘤	1
53	シェーグレン症候群	40	119	アイザックス症候群	0
54	成人スチル病	12	120	遺伝性ジストニア	2
55	再発性多発軟骨炎	6	121	神経フェリチン症	0
56	ペーチェット病	47	122	脳表ヘモジデリン沈着症	0
57	特発性拡張型心筋症	44	123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣勢性白質脳症	0
58	肥大型心筋症	33	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
59	拘束型心筋症	1	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
60	再生不良性貧血	21	126	ペリー症候群	0
61	自己免疫性溶血性貧血	5	127	前頭側頭葉変性症	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	128	ビックースタッフ脳幹脳炎	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	30	129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0
64	血栓性血小板減少性紫斑病	4	130	先天性無痛無汗症	1
65	原発性免疫不全症候群	5	131	アレキサンダー病	0
66	IgA腎症	40	132	先天性核上性球麻痺	0

## 4 指定難病についての診療

133	メビウス症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症／ドモルシア症候	1	201	アンジェルマン症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
136	片側巨脳症	1	203	22q11.2欠失症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	204	エマヌエル症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	206	脆弱X症候群	0
140	ドラベ症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	208	修正大血管転位症	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	209	完全大血管転位症	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	210	単心室症	0
144	レノックス・ガストー症候群	3	211	左心低形成症候群	0
145	ウエスト症候群	3	212	三尖弁閉鎖症	0
146	大田原症候群	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	215	ファロー四徴症	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	216	両大血管右室起始症	2
150	環状20番染色体症候群	0	217	エプスタイン病	0
151	ラスマッセン脳炎	0	218	アルポート症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	222	一次性ネフローゼ症候群	36
156	レット症候群	1	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	224	紫斑病性腎炎	7
158	結節性硬化症	3	225	先天性腎性尿崩症	0
159	色素性乾皮症	3	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2
160	先天性魚鱗癖	0	227	オスラー病	2
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	228	閉塞性細気管支炎	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0
163	特発性後天性全身性無汗症	12	230	肺胞低換気症候群	0
164	眼皮膚白皮症	0	231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	232	カーニー複合	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	233	ウォルフラム症候群	0
167	マルファン症候群	6	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
168	エーラス・ダンロス症候群	1	235	副甲状腺機能低下症	1
169	メンケス病	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
171	ウィルソン病	2	238	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	6
172	低ホスファターゼ症	3	239	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	0
173	VATER症候群	0	240	フェニルケトン尿症	0
174	那須・ハコラ病	0	241	高チロシン血症1型	0
175	ウィーバー症候群	0	242	高チロシン血症2型	0
176	コフィン・ローリー症候群	0	243	高チロシン血症3型	0
177	ジューベル症候群関連疾患【旧:有馬症候群】	0	244	メープルシロップ尿症	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	245	プロピオン酸血症	0
179	ウイリアムズ症候群	0	246	メチルマロン酸血症	0
180	ATR-X症候群	0	247	イソ吉草酸欠症	0
181	クルーゾン症候群	0	248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
182	アペール症候群	0	249	グルタル酸血症1型	0
183	ファイファー症候群	0	250	グルタル酸血症2型	0
184	アントレー・ピクスラー症候群	0	251	尿素サイクル異常症	0
185	コフィン・シリス症候群	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
186	ロスマンド・トムソン症候群	0	253	先天性葉酸吸收不全	0
187	歌舞伎症候群	1	254	ポルフィリン症	1
188	多脾症候群	0	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
189	無脾症候群	1	256	筋型糖原病	0
190	鰓耳腎症候群	0	257	肝型糖原病	1
191	ウィルナー症候群	0	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
192	コケイン症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
193	プラダー・ウィリ症候群	3	260	シトステロール血症	0
194	ソトス症候群	0	261	タンジール病	0
195	ヌーナン症候群	0	262	原発性高カリモクロン血症	0
196	ヤング・シンプソン症候群	0	263	脳膜黄色腫症	0
197	1p36欠失症候群	0	264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0
198	4p欠失症候群	0	265	脂肪萎縮症	0
199	5p欠失症候群	0	266	家族性地中海熱	5

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

267	高IgD症候群	0	300	IgG4関連疾患	7
268	中條・西村症候群	0	301	黄斑ジストロフィー	1
269	化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクリン病	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
270	慢性再発性多発性骨髓炎	0	303	アッシャー症候群	0
271	強直性脊椎炎	10	304	若年発症型両側性感音難聴	1
272	進行性骨化性線維異形成症	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	37
274	骨形成不全症	0	307	カナバン病	0
275	タナトフォリック骨異形性症	0	308	進行性白質脳症	0
276	軟骨無形成症	3	309	進行性ミオクーヌスてんかん	0
277	リンパ管腫症／ゴーハム病	0	310	先天異常症候群	0
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0	312	先天性憎帽弁狭窄症	0
280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1	313	先天性肺静脈狭窄症	0
281	クリッペル・トレノナー・ウェバー症候群	2	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／LMX1B関連腎症	1
283	後天性赤芽球病	0	316	カルニチン回路異常症	0
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0	317	三頭酵素欠損症	0
285	ファンコニ貧血	0	318	シトリン欠損症	1
286	遺伝性鉄芽救性貧血	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
287	エプスタイン症候群	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシタル(GPI)欠損症	0
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症(自己免疫性後天性凝固第X因子欠乏症)	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
292	総排泄腔外反症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
293	総排泄腔遺残	0	326	大理石骨病	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	328	前眼部形成異常	0
296	胆道閉鎖症	0	329	無虹彩症	1
297	アラジール症候群	0	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 【旧:先天性気管狭窄症】	0
298	遺伝性脾炎	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	11
299	囊胞性線維症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333		ハッチソン・ギルフォード症候群	0
		334		脳クレアチン欠乏症候群	0
		335		ネフロン病	0
		336		家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
		337		ホモシチン尿症	0
		338		進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
		339		MECP2重複症候群	0
		340		線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
		341		TRPV4異常症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	131
合計患者数(人)	2816

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・バイオ後続品使用体制加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算3	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算2	・データ提出加算
・急性期看護補助体制加算	・入退院支援加算
・看護職員夜間配置加算	・認知症ケア加算
・看護補助加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料2
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・入院時食事療養／生活療養(Ⅰ)
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・外来腫瘍化学療法診療料1
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・連携充実加算
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・ニコチン依存症管理料
・糖尿病合併症管理料	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・開放型病院共同指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・がん治療連携計画策定料
・がん患者指導管理料イ	・ハイリスク妊娠婦連携指導料1
・がん患者指導管理料ロ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・地域連携診療計画加算
・外来緩和ケア管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・医療機器安全管理料2
・糖尿病透析予防指導管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・小児運動器疾患指導管理料	・歯科治療時医療管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・救急患者連携搬送料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・一般不妊治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと運動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと運動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと運動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料3	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・下肢創傷処置管理料	・遺伝学的検査の注2に規定する施設基準
・院内トリアージ実施料	・染色体検査の注2に規定する基準
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算	・骨髄微小残存病変量測定
・外来放射線照射診療料	・BRCA1／2遺伝子検査

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がんゲノムプロファイリング検査	・画像診断管理加算4
・先天性代謝異常症検査	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・CT撮影及びMRI撮影
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・冠動脈CT撮影加算
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・心臓MRI撮影加算
・検体検査管理加算(IV)	・乳房MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・頭部MRI撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・肝エラストグラフィ加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・外来化学療法加算1
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・無菌製剤処理料
・胎児心エコー法	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・ヘッドアップティルト試験	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・人工脾臓検査、人工脾臓療法	・運動器リハビリテーション料(I)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・神経学的検査	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・補聴器適合検査	・がん患者リハビリテーション料
・全視野精密網膜電図	・リンパ浮腫複合的治療料
・ロービジョン検査判断料	・集団コミュニケーション療法料
・小児食物アレルギー負荷検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内服・点滴誘発試験	・通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算
・CT透視下気管支鏡検査加算	・通院・在宅精神療法の注10に規定する児童思春期支援指導加算
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法1
・画像診断管理加算1	・精神科作業療法

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失调症治療指導管理料に限る。)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・医療保護入院等診療料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・多血小板血漿処置	・角膜移植術(内皮移植加算)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・羊膜移植術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・縁内障手術(縁内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・人工腎臓	・縁内障手術(縁内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・縁内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・網膜再建術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・手術用顕微鏡加算	・耳管用補綴材挿入術
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・皮膚移植術(死体)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・自家脂肪注入	・上頸骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下頸骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・椎間板内酵素注入療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・腹腔鏡下胃縮小術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除を伴うもの)
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胸腔鏡下弁置換術	・体外衝撃波胆石破碎術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・体外衝撃波脾石破碎術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・磁気ナビゲーション加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・同種死体腎移植術
・経皮的下肢動脈形成術	・生体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・歯周組織再生誘導手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・広範囲顆骨支持型装置埋入手術
・精巣内精子採取術	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・体外式膜型人工肺管理料	・定位放射線治療
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・再製造単回使用医療機器使用加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・輸血管理料Ⅰ	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・輸血適正使用加算	・病理診断管理加算2
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・コーディネート体制充実加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・自己生体組織接着剤作成術	・看護職員待遇改善評価料71
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・入院ベースアップ評価料85

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二十一年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部: 血液内科カンファレンス(週1回)、ハートチーム(TAVI)・循環器内科カンファレンス(週1回)、精度管理に関する症例検討会(月1回) 病理部: 臨床研修CPC(病理診断科主催)12回, CPC・PMC(病理学講座主催)14回, 小児がんカンファレンス(小児科主催)12回	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	10
	剖検率(%)	2.9

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
羊水塞栓症の遺伝的リスク背景ならびに発症機序の解明:新たな治療戦略を目指して	伊東 宏晃	産婦人科学講座	910,000	(補)委
日本学術振興会				
HPV感染の可視化から多様性獲得の解明によって切り拓く新規癌治療法の開発	三澤 清	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	6,625,154	(補)委
				日本学術振興会
自閉症中核症状の新規治療シーズ創出:RCTベースの多層オミクスと検証的動物実験	山末 英典	精神医学講座	4,680,000	(補)委
				日本学術振興会
ヒューマンイミュノロジーを基軸としたアトピー性皮膚炎免疫病態の統合的理解	本田 哲也	皮膚科学講座	4,680,000	(補)委
				日本学術振興会
ハイブリッドフローサイトメーターによる血中循環腫瘍細胞の新規質的診断法の開発	竹内 裕也	外科学第二講座	5,070,000	(補)委
				日本学術振興会
脳腫瘍治療の新フェーズ:脱落乳歯歯髄幹細胞を用いた遺伝子細胞療法の開発	黒住 和彦	脳神経外科学講座	4,940,000	(補)委
				日本学術振興会
特発性間質性肺炎の診断や予後予測に有用な新規血清バイオマーカーと人工知能の開発	須田 隆文	浜松医科大学	7,410,000	(補)委
				日本学術振興会
羊水塞栓症発症ハイリスク妊娠スクリーニング遺伝子パネル検査の開発を目指した研究	伊東 宏晃	産婦人科学講座	4,680,000	(補)委
				日本学術振興会
大腸上皮細胞を介したIL-22とIL-33のクロストークが粘膜免疫へ及ぼす影響	杉本 健	内科学第一講座	1,040,000	(補)委
				日本学術振興会
人工心肺中における脳梗塞の病態の解明:水素ガスによる二次性脳損傷予防	大橋 雅彦	麻酔・蘇生学講座	910,000	(補)委
				日本学術振興会
糖尿病性腎臓病患者における身体活動量からみた腎機能低下機序の解明:新たな治療戦略	平野 裕真	リハビリテーション部	390,000	(補)委
				日本学術振興会
神経性やせ症の感情調節と脳の機能不全に対するMANTRAの有効性の検討	磯部 智代	精神科神経科	780,000	(補)委
				日本学術振興会
小児腫瘍患児の精神的苦痛と家族機能に対するアドバンス・ケア・プランニングの有効性	遠藤 ゆうな	精神科神経科	1,040,000	(補)委
				日本学術振興会
免疫老化機構からの原発性胆汁性胆管炎の病態解明と新規治療基盤の創出	伊藤 潤	第二内科診療科群	1,560,000	(補)委
				日本学術振興会
ニコチン受容体機能に着目した注意欠如・多動症の病態解明:PETによる検討	藤田 宏治	精神科神経科	650,000	(補)委
				日本学術振興会
神経性やせ症におけるシナプス密度とミトコンドリア機能異常:PETによる検討	横倉 正倫	精神医学講座	1,170,000	(補)委
				日本学術振興会
不安を伴ううつ病の病態解明:PETによる疾患横断的検討と次世代治療シーズの創出	亀野 陽亮	精神医学講座	910,000	(補)委
				日本学術振興会
神経性やせ症と強迫症の機能的/解剖学的ネットワーク障害-疾患横断的な病態解明-	竹林 淳和	精神科神経科	780,000	(補)委
				日本学術振興会
Abbreviated MRIを用いた大腸癌肝転移検索アルゴリズムの開発	市川 新太郎	放射線診断学講座	780,000	(補)委
				日本学術振興会
超偏極MRI技術を用いた転移性肝がん超早期診断モデルの開発	五島 聰	放射線診断学講座	1,170,000	(補)委
				日本学術振興会
早産低出生体重児における動脈硬化前病变進展メカニズムの解明	石川 貴充	小児科学講座	1,300,000	(補)委
				日本学術振興会
MAFLD合併原発性胆汁性胆管炎の病態解明と新規治療法の構築	川田 一仁	内科学第二講座	1,430,000	(補)委
				日本学術振興会
免疫監視機構に着目したインテグリン阻害剤によるNASH肝癌の新規治療戦略の創出	則武 秀尚	内科学第二講座	650,000	(補)委
				日本学術振興会
MSI変異随伴スプライシング異常による大腸がん薬物療法の感受性変化	岩泉 守哉	検査部	1,560,000	(補)委
				日本学術振興会
出血刺激に対するマクロファージの炎症反応応答と冠動脈ブラーク進行の病態解明	坂本 篤志	内科学第三講座	260,000	(補)委
				日本学術振興会

個別化医療に向けた脂肪酸代謝に焦点をあてた肥大型心筋症の病因解明	前川 裕一郎	内科学第三講座	780,000	補委	日本学術振興会
肥満による線毛機能障害に着目したウイルス性呼吸器感染症重症化の制御法の開発	藤澤 朋幸	第二内科診療科群	1,300,000	補委	日本学術振興会
運動のコリン作動性抗炎症反応経路を介し腎臓内RAS抑制による腎障害改善機序の検証	大橋 溫	卒後教育センター	780,000	補委	日本学術振興会
エイコサペンタエン酸のTGF-β1抑制作用に着目したリンパ浮腫薬物療法の開発	佐野 真規	第二外科診療科群	1,040,000	補委	日本学術振興会
Type2 サイトカイン関連皮膚疾患におけるガレクチニーザの生理機能の解明	島内 隆寿	皮膚科	780,000	補委	日本学術振興会
薬疹における皮膚レジデントメモリーT細胞関与の解明	藤山 俊晴	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会
環境中アレルゲン除去による食物アレルギーの発症予防・治療	夏目 統	小児科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
重症インフルエンザ肺炎におけるウイルス特異的応答と好酸球死誘導	宮入 烈	小児科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
新生児壞死性腸炎の新たな病因および治療:消化管サーファクタントの関与の検討	澤井 利夫	小児外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
小腸移植における補体因子C5a阻害効果の解明と治療応用を目指した研究	當山 千巖	小児外科	0	補委	日本学術振興会
出血性ショックにおけるミトコンドリア酸化ストレスに注目したグリコカリックス保護	御室 総一郎	麻酔・蘇生学講座	650,000	補委	日本学術振興会
レミマゾラム投与によるマウスのせん妄表現調査と時計遺伝子Per2の検証	青木 善孝	集中治療部	1,170,000	補委	日本学術振興会
長時間持続投与時のレミマゾラム血中濃度推移の薬物動態の解明	鈴木 祐二	集中治療部	390,000	補委	日本学術振興会
敗血症によって起こる血流変化と各重要臓器障害を起こす病態の解明	川島 信吾	麻酔・蘇生学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
敗血症におけるミトコンドリア由来の酸化ストレスの制御によるグリコカリックス保護	八木原 正浩	麻酔科蘇生科	520,000	補委	日本学術振興会
悪性脳腫瘍に対するヒト脱落乳歯歯齶幹細胞を用いた新規腫瘍溶解ウイルス療法	小泉 慎一郎	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
胎児血液中の脂質プロファイルが胎盤発達と胎児の身体及び神経発達に及ぼす影響	谷口 千津子	医師トータルサポートセンター	1,040,000	補委	日本学術振興会
帝王切開時の分娩後出血を減らす—オキシトシン子宮筋注の子宮収縮維持効果の解析	成瀬 智	周産母子センター	910,000	補委	日本学術振興会
血管吻合用金属ステントとファイバーレーザー照射による微小血管吻合術の研究	中川 雅裕	形成外科学講座	520,000	補委	日本学術振興会
X染色体活性化状態に注目した女性口腔がんの新たな予後診断法の確立	増本 一真	歯科口腔外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
高度肥満症における運動昇圧反射特性の解明および肥満減量手術による効果の検討	永房 鉄之	リハビリテーション部	780,000	補委	日本学術振興会
中性脂肪蓄積心筋血管症診療の鍵となる、血液による簡便なスクリーニング検査法の開発	鈴木 朗	検査部	1,300,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症におけるシナプス密度と興奮抑制バランス不均衡の関係	山口 静乃	精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
切除不能進行肝細胞癌のコンパニオン診断:マルチパラメトリックMRIによるアプローチ	尾崎 公美	放射線科診療科群	910,000	補委	日本学術振興会
心筋ミトコンドリア機能障害によるアントラサイクリン誘発性心筋症の発症予測	水野 雄介	第三内科診療科群	130,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞後致死性イベントの新たな危険因子の探索	成瀬 代士久	内科学第三講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
線維化解除をターゲットとした肺線維化病態の解明と創薬への展開	乾 直輝	臨床薬理学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
真菌関連アレルギー性気道疾患における獲得免疫誘導の仕組みの解明と制御法の開発	古橋 一樹	感染制御センター	1,170,000	補委	日本学術振興会

円形脱毛症の難治化におけるresident memory T細胞の関わりと新規治療の展開	伊藤 泰介	皮膚科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
治療前後の比較解析を通じた特発性後天性全身性無汗症の新規病態形成機序の解明	影山 玲子	皮膚科学講座	2,340,000	補委	日本学術振興会
アナフィラキシー様反応を中心とした病態に基づく羊水塞栓症の急性期治療の探索	磯村 直美	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
敗血症性ショックによるグリコカリックス障害に対する硫化水素の効果研究	鈴木 興太	麻酔科蘇生科	1,170,000	補委	日本学術振興会
細胞小器官脂質解析によるIDH変異神経膠腫の悪性化機序の解明と治療標的分子の探索	山崎 友裕	脳神経外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
レスベラトロールを用いたプレバイオティクスによる脳動脈瘤形成・破裂抑制の検討	平松 久弥	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
糖鎖生物学に注目した子宫体がん悪性化機構の解明とそのトランスレーショナルリサーチ	柴田 俊章	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌のエクソーム、ctDNAの統合解析によるモニタリングシステムの確立	今井 篤志	耳鼻咽喉科	1,820,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌におけるRNA修飾とRNA編集のメカニズム解明	竹内 一隆	耳鼻咽喉科	390,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌における環状RNA解析及びバイオマーカー探索	望月 大極	耳鼻咽喉科	520,000	補委	日本学術振興会
最新のインフォマティクス解析による若年発症網膜ジストロフィの分子基盤の解明	鳥居 薫子	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性疼痛に対する集団森田療法のプログラム開発と有効性の検討	原田 効吾	精神科神経科	1,690,000	補委	日本学術振興会
CXCR4システム・口腔マイクロバイオームに着目した薬剤関連顎骨壊死の発症予防戦略	八木 達也	薬剤部	1,820,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害時におけるAMPA受容体拮抗薬の中枢移行および薬効・有害作用の個人差の解明	川上 純一	薬剤部	1,690,000	補委	日本学術振興会
妊娠糖尿病患者に対するリスク因子の解明と産後管理体制の構築~自治体との連携事業~	釣谷 大輔	第二内科診療科群	1,040,000	補委	日本学術振興会
活性化ミクログリアへの作用に着目した自閉スペクトラム症オキシトシン治療機序の解明	和久田 智靖	精神科神経科	1,690,000	補委	日本学術振興会
イメージングサイトメーターを用いた新たな白血病細胞の薬剤感受性評価法の開発	坂口 公祥	小児科	2,080,000	補委	日本学術振興会
NAMPTを標的とした肺線維症の病態解明と新規治療の開発	穂積 宏尚	内科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
線溶抑制因子PAI-1を治療標的としたCOPDに対する新規治療戦略	安井 秀樹	臨床研究センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
Mg欠乏モデルを用いたDPP4阻害薬のシスプラチニ腎症軽減効果の機序解明	岩倉 考政	第一内科診療科群	2,730,000	補委	日本学術振興会
円形脱毛症病態におけるIL-15の機能と毛包immune privilegeに対する影響の解析	鈴木 健晋	皮膚科学講座	2,340,000	補委	日本学術振興会
血栓形成能可視化に基づいた慢性骨髄性白血病分子標的薬惹起血管閉塞の予防法の開発	小野 孝明	輸血・細胞治療部	1,820,000	補委	日本学術振興会
Cancer associated Schwan cellを標的とした肺癌の新たな治療方法の開発	北嶋 謙	腫瘍センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
麻酔術後急性痛におけるビタミンD欠乏の役割と痛み惹起体血管機能異常に関する研究	木村 哲朗	麻酔科蘇生科	2,860,000	補委	日本学術振興会
敗血症性ショック時の血管収縮薬による血圧維持と重要臓器の微小循環への影響	栗田 忠代士	手術部	1,560,000	補委	日本学術振興会
ビタミンD欠乏が術後痛および術後炎症に及ぼす影響とメカニズムの検討	鈴木 明	医療安全管理室	2,730,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアUnCoupling Protein 2による出血性ショック予後改善効果	伊藤 純哉	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脂質代謝を介した脳動脈瘤形成・破裂機序の解明と治療へのアプローチ	神尾 佳宣	脳神経外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会

パーキンソン病モデルラットの基底核pHダイナミズム解明	野崎 孝雄	脳神経外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
副腎皮質癌の免疫逃避において機能欠損型ZNFR3が来す役割の解明	稻元 輝生	泌尿器科学講座	1,257,100	補委	日本学術振興会
ゲノミクスを用いた羊水塞栓症の発症リスク因子の同定と新規治療戦略の開発	田村 直顕	周産母子センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
中咽頭癌の三次元立体構造変化を伴う転写制御異常に基づく個別化治療標的の解明	杉山 夏樹	耳鼻咽喉科	3,900,000	補委	日本学術振興会
HPV粒子の可視化とHippo経路から紐解く鼻副鼻腔内反性乳頭腫の悪性転化機構	喜多 淳哉	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会
HPV感染現象における宿主細胞コンピテンシーに関わる因子の解明	森田 浩太朗	耳鼻咽喉科	3,640,000	補委	日本学術振興会
IL4I1-Trp代謝経路による悪性黒色腫に対する腫瘍癌免疫抑制の機序の解明	福地 健祐	皮膚科	780,000	補委	日本学術振興会
組織酸素飽和度測定器による重症虚血肢に対する必要十分な術中戦略の確立	嘉山 貴文	外科学第二講座	520,000	補委	日本学術振興会
がん悪液質の病態時におけるCYP3A活性の定量評価とグレリン様作用薬の影響の解明	佐藤 聖	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌における脂質メディエーターによる増殖機構の解明と新規治療標的の探索	武田 真	外科学第二講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
がん関連線維芽細胞に発現するUBL3の非小細胞肺がん増殖・浸潤への寄与検証	高梨 裕典	外科学第一講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
自閉症におけるシナプス密度とミトコンドリア機能異常について:PETによる検討	加藤 康彦	精神医学講座	650,000	補委	日本学術振興会
医用画像を用いたRadiomicアプローチによる肝細胞癌治療効果予測モデルの開発	棚橋 裕吉	放射線科診療科群	780,000	補委	日本学術振興会
GILZによる抗炎症性腹腔マクロファージの誘導と腸管粘膜免疫機構の制御	田村 智	内科学第一講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
クッシング病におけるUSP48遺伝子変異の実態ならびに新規治療機序の解明	柿沢 圭亮	第二内科診療科群	1,690,000	補委	日本学術振興会
碎石位手術における周術期合併症予防のための至適術中体位の確立	鈴木 雄飛	外科学第二講座	520,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるADAMTS13を介した血栓形成機序解明及び新規治療法の確立	阪田 麻裕	外科学第二講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
下肢閉塞性動脈硬化症・包括的高度慢性下肢虚血切断肢における動脈の病理学的検討	夏目 佳代子	外科学第一講座	130,000	補委	日本学術振興会
アナフィラキシーにおける血管内皮障害のリアルタイム観察と制御法の探索	小林 賢輔	麻酔科蘇生科	1,560,000	補委	日本学術振興会
羊水塞栓症発症リスクの因子の探索	松家 まどか	産婦人科学講座	910,000	補委	日本学術振興会
MRONJ外科療法へのICG蛍光法の応用	林 祐太郎	歯科口腔外科学講座	260,000	補委	日本学術振興会
肺扁平上皮癌、頭頸部扁平上皮癌の脂質、蛋白質オミクス解析による鑑別マーカーの探索	川瀬 晃和	第一外科診療科群	1,170,000	補委	日本学術振興会
経頭蓋直流電気刺激による脳内セロトニン放出:認知症性疾患治療に向けたPET研究	武内 智康	脳神経内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
AIを活用したゲノム解析とRNA解析による神経発達症の新規遺伝学的解析スキームの創造	平出 拓也	小児科	2,340,000	補委	日本学術振興会
細胞形質分化プログラムの破綻を機序とする小細胞肺がんの新規治療戦略の確立	井上 裕介	第二内科診療科群	1,690,000	補委	日本学術振興会
せん妄の解決に向けた麻酔による概日リズム内的脱同調の証明	今井 亮	手術部	1,300,000	補委	日本学術振興会
自然炎症マーカーを用いたHFpEF患者の病態クラスタリングと薬物治療選択への応用	鈴木 光路	薬剤部	1,820,000	補委	日本学術振興会
細菌性腹膜炎に対する新規治療法の確立-222nmUV-C照射の有用性-	鈴木 克徳	外科学第二講座	1,820,000	補委	日本学術振興会

膀胱関連線維芽細胞による免疫チェックポイント阻害剤耐性機序の解明と新規治療の創出	古橋 晓	第二外科診療科群	3,120,000	補委	日本学術振興会
胆汁エクソソーム脂質解析による胆管癌新規バイオマーカーの臨床応用及び新規創薬	村木 隆太	外科学第二講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
癌免疫微小環境と至適炎症に基づく消化器癌の新しい個別治療戦略の開発	村上 智洋	第二外科診療科群	4,680,000	補委	日本学術振興会
排尿筋括約筋協調不全に対するKCC2活性化の治療効果および作用機序の解明	渡邊 恒平	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
UBL3が膀胱癌に及ぼす影響について	田村 啓多	泌尿器科学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会
閉経後女性のエストロボロームの実態を明らかにし、子宫体癌罹患との関連を解明する	成味 恵	産科婦人科	2,340,000	補委	日本学術振興会
再発頭頸部癌の免疫治療抵抗性克服のための革新的治療法の開発	三澤 由幾	耳鼻咽喉科	2,860,000	補委	日本学術振興会
ナノスース法によるHPV粒子数に着目したHPV関連中咽頭癌の前癌病変の同定	山田 智史	耳鼻咽喉科	3,120,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌患者の機能予後や生命予後はリハビリテーション治療と栄養管理で改善するか	佐藤 知香	リハビリテーション科	3,640,000	補委	日本学術振興会
悪性腫瘍に対する新規超音波発光療法の開発	中村 和正	放射線腫瘍学講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
血中GLP-1を指標とするSGLT2阻害薬のHFpEF患者における有効性予測法の確立	竹下 舜也	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患に対するサイトカイン量を指標としたウステキヌマブの個別化治療の確立	坂口 健太	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
線溶制御系破綻時の血栓溶解過程のイメージング解析と検査法の確立による病態解明	浦野 哲盟	薬理学講座	3,380,000	補委	日本学術振興会
ゲノムの非コード領域に注目した小児脳神経疾患の新規発症機序の解明	才津 浩智	医化学講座	5,720,000	補委	日本学術振興会
炎症性・変性疾患の進行を光と音響によって定量・可視化する計測技術の開発	大川 晋平	生体計測工学分野	6,240,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病の神経・ミクロ・アストログリア病態の多角的生体描出と治療戦略	尾内 康臣	生体機能イメージング分野	7,280,000	補委	日本学術振興会
エネルギー代謝から明らかにする自閉症発症機構	阪東 勇輝	器官組織解剖学講座	5,070,000	補委	日本学術振興会
GABAシナプス機能へのアストロサイトの能動的関与とその破綻:時空間的動態と病態	福田 敦夫	医化学講座	3,770,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム特性の産前リスク因子と酸化ストレス:出生コホートMRS研究	岩渕 俊樹	子どものこころの発達研究センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
SAC3D1による中心体複製制御:乳癌悪性進展モデルの構築と悪性度マーカーの開発	酒井 康弘	腫瘍病理学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
ALS発症におけるOPTNの新規核内機能:スプライソソーム異常と凝集体形成	大坪 正史	光生体医工学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
母体の不十分な妊娠中体重増加量(GWG)と児の神経発達予後の関連	中安 智香子	子どものこころの発達研究センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
量子マテリアルを放射線増感剤として利用した量子増感放射線療法の開発	荒牧 修平	スタートアップ支援・URA室	1,040,000	補委	日本学術振興会
社会性障害の克服を目指したオキシシン神経系受容体の特異的画像化法開発	鈴木 千恵	分子病態イメージング分野	910,000	補委	日本学術振興会
止血血栓安定化機構とその破綻による病態のリアルタイムイメージング解析	鈴木 優子	医生理学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
Cancer neuroscienceに基づいた膀胱癌の新規治療法開発	森田 剛文	森町地域包括ケア講座(寄附講座)	1,560,000	補委	日本学術振興会
解離性同一性障害の回復プロセス-多重な自己の機能的統合プロセスの検討-	井上 淳	児童青年期精神医学講座(寄附講座)	650,000	補委	日本学術振興会
神経筋疾患の筋組織脂肪化の脂質組成イメージングと病理メカニズムの推定	長島 優	光生体医工学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会

アルツハイマー病におけるGABA作動異常と一次繊毛機能の関連性の解明	王 天英	生体機能イメージング分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸合成酵素の産生量を標的とした阻害剤開発とNASH病態下における機能解明	佐藤 伸哉	微生物学・免疫学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
エクソソームプロテオーム解析による肝筋型糖原病組織障害病態とバイオマーカーの研究	福田 冬季子	浜松成育医療学講座(寄附講座)	1,170,000	補委	日本学術振興会
高コレステロール血症が脳動脈破裂におよぼす因果関係とそのメカニズムの解明	外村 和也	臨床医学教育学講座(寄附講座)	910,000	補委	日本学術振興会
Cell type specificオミックス解析によるRhoBTB2関連神経疾患の病態解明と治療法開発	武藤 弘樹	医化学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
炎症非依存的かつ胸膜及び胸膜下肺における線維化誘導機序の解明	榎本 泰典	再生・感染病理学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
血管周囲脂肪組織のprostaglandinに着目した腹部大動脈瘤形成の機序解明と治療戦略	佐々木 健	器官組織解剖学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症における短絡的連合によるトラウマ記憶形成メカニズムの解明	川上 澄香	子どものこころの発達研究センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
KISS1R 機能亢進変異が中枢性思春期症発症を招くメカニズムの解明	増永 陽平	地域医療支援学講座(寄附講座)	1,560,000	補委	日本学術振興会
先天性気管狭窄症における遺伝学的原因の探索	矢本 香織	医化学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会
胃癌腹水の迅速診断を可能にする脱塩質量分析技術の確立	佐藤 智仁	細胞分子解剖学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症児における幾何学模様への注視行動と局所処理優勢との関係	須田 桃香	子どものこころの発達研究センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種におけるSOX4を介した免疫微小環境メカニズムの解明と新規治療開発	吉村 克洋	腫瘍病理学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
両X染色体活性化を介した女性腫瘍の悪性化機構の解明と治療への応用	北川 雅敏	分子生物学講座	6,500,000	補委	日本学術振興会
脳画像を基盤とする認知症血液バイオマーカーの国際検証研究	尾内 康臣	生体機能イメージング分野	5,330,000	補委	日本学術振興会
先天性指趾/四肢形成不全症を招く遺伝学的機序の解明	矢本 香織	医化学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
保健所における健康危機管理対応の推進等に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学講座	8,100,000	補委	厚生労働省
災害時の保健・医療・福祉及び防災分野の情報集約及び対応体制における連携推進のための研究	尾島 俊之	健康社会医学講座	13,770,000	補委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	須田 隆文	内科学第二講座	26,000,000	補委	国立保健医療科学院
小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に関わる地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究	宮入 烈	小児科学講座	4,998,000	補委	厚生労働省
発達障がいが疑われる小児に対する新しい診断的評価～開発から社会実装へ	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インプリントィング疾患の診療ガイドライン作成に向けたエビデンス創出研究	緒方 勤	医化学講座	15,620,189	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
細胞およびマウスモデルを用いたRhoBTB2関連神経発達症の分子病態解明と疾患概念の確立	才津 浩智	医化学講座	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ナノスース法による精子形態評価の機械学習アルゴリズムの開発	宗 修平	生殖周産期医学講座	7,930,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	竹内 裕也	外科学第二講座	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高リスク筋層非浸潤性膀胱癌に対するPDD-TURによる残存腫瘍減少効果の検討	三宅 秀明	泌尿器科学講座	0	補委	国立大学法人山口大学
EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるアフチニブからオシメルチニブへの逐次投与の有効性を評価する多施設共同前向き観察研究(Gio-Tag Japan)	須田 隆文	内科学第二講座	0	補委	宝塚市立病院
非小細胞肺癌におけるフルルビプロフェンアキセチル周術期投与による術後再発予防効果を検証するための多施設共同ランダム化第II相比較試験(FLAX試験)	船井 和仁	第一外科診療科群	4,080	補委	国立病院機構横浜医療センター

間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	須田 隆文	内科学第二講座	100,000	補委	国立大学法人東海国立大学機構
高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブロートの冠動脈ブラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験	前川 裕一郎	内科学第三講座	440,000	補委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
ヨード密度値を用いたHistogram analysisによる肺腺癌化学療法治療効果予測に関する研究	五島 聰	放射線診断学・核医学講座	0	補委	国立大学法人東海国立大学機構
心不全増悪入院患者におけるアンジオテンシン・ネブリマイシン阻害薬の研究(PREMIER study)	前川 裕一郎	内科学第三講座	0	補委	佐賀大学医学部附属病院
間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎患者を対象とした肺病変の進行を規定するバイオマーカー探索研究	須田 隆文	内科学第二講座	0	補委	国立大学法人長崎大学
高TG血症合併NAFLDに対するペマフィブロート、フェノフィブロートの無作為化比較試験—多施設共同、オープン試験—	川田 一仁	内科学第二講座	0	補委	公立大学法人横浜市立大学
循環器疾患診療実態調査(JROAD)のデータベースによる心臓サルコイドーシスの診療実態調査と二次調査に基づく診断・治療プロトコールの策定に関する研究」(MYSTICS)	前川 裕一郎	内科学第三講座	0	補委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤との長期併用時のTM5614の安全性・有効性を検証する第Ⅲ相試験	小野 孝明	輸血・細胞治療部	536,250	補委	国立大学法人東北大学
転移性去勢抵抗性前立腺癌に対するアバランチの有効性・安全性の評価を目的とした多施設共同単群試験	田村 啓多	泌尿器科学講座	660,000	補委	国立大学法人神戸大学
転移性尿路上皮がんに対する逐次葉物利用におけるリキッドバイオプシーの有用性を検討する多施設共同前向き観察研究	松下 雄登	泌尿器科	100,000	補委	国立大学法人筑波大学
ネフローゼ型膜性腎症に対するリソキシマブ(遺伝子組換え)の有効性及び安全性を検証する多施設共同プラセボ対照無作為化二重盲検並行群間比較試験	安田 日出夫	内科学第一講座	3,500,000	補委	国立大学法人東海国立大学機構
生体モデル検証事業	伊藤 昌彦	微生物学・免疫学講座	0	補委	国立大学法人琉球大学
胃癌のCT画像を用いた深層学習による胃癌診断と臨床転帰の予測モデル構築の試み	齊藤 岳児	次世代創造医工情報教育センター	0	補委	静岡県立静岡がんセンター
70歳以上のEpidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究(研究略名: MONEY、研究番号: CSPOR-LC09 )	須田 隆文	内科学第二講座	0	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
重度腎機能低下患者のサクピトリルバルサルタン投与時における高カリウム血症発現頻度の多機関共同後方視的研究	清水 幹裕	臨床研究センター	0	補委	公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構
エンホルツマブ ベドチンによる皮膚障害の発症様式に関する多機関共同観察研究	松下 雄登	泌尿器科	220,000	補委	国立大学法人京都大学
リンゲル液負荷によるERCP後胆炎予防に関するランダム化比較対照研究	杉本 健	内科学第一講座	0	補委	国立大学法人三重大学
未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するペムプロリズマブの至適投与量に関する試験	須田 隆文	内科学第二講座	0	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
経食道運動誘発電位ならびに測定に用いる経食道脊髓刺激電極の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相試験	鷲山 直己	第一外科診療科群	1,420,000	補委	独立行政法人国立病院機構函館病院
国産手術支援ロボットhinotori™を用いた腎部分切除術の前向き観察研究	本山 大輔	先進ロボット手術開発学講座	0	補委	国立大学法人神戸大学
令和6年度乳房炎好発牛鑑別メーカーの実用化検証事業	伊藤 昌彦	微生物学・免疫学講座	1,000,000	補委	国立大学法人東京農工大学
生体モデル検証事業	伊藤 昌彦	微生物学・免疫学講座	2,640,000	補委	国立大学法人琉球大学
同種造血幹細胞移植後の顆洞閉塞症候群に対するDefibrotideの有効性・安全性の検討	小野 孝明	輸血・細胞治療部	0	補委	北海道大学病院

全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者選元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレシジョン医療の実践 JCOG2203食道胃接合部腺癌に対するDOS or FLOTを用いた術前化学療法のランダム化第II/III相試験の附隨研究 「組織と血液を用いた予後や治療効果、毒性に関するバイオマーカーの探索的研究」について- 全ゲノム解析等実行計画 -	竹内 裕也	外科学第二講座	0	補 委	公益財団法人がん研究会
プローダイバーター留置術周術期抗血小板療法期間に関する多施設共同ランダム化比較試験	根木 宏明	脳神経外科	0	補 委	国立大学法人東海国立大学機構
抗凝固療法下に発症した心房細動関連脳梗塞に対する経皮的左心耳閉鎖術の多施設共同単群介入試験(AFIDA-2)	佐野 誠	第三内科診療科群	0	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
高血圧合併高尿酸血症に対するドチヌラドの検証研究 DIANA-NEXT	前川 裕一郎	内科学第三講座	0	補 委	佐賀大学医学部附属病院
AI向け3DX線CT画像の圧縮に関する検証	中村 和正	放射線腫瘍学講座	0	補 委	国立大学法人静岡大学
浜松市児童青年期メンタルヘルス支援人材育成事業業務委託	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	6,000,000	補 委	浜松市
Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	中村 和正	放射線腫瘍学講座	2,442,700	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
イメージング質量分析による動態評価技術の新規モダリティ薬剤への適応展開	瀬藤 光利	細胞分子解剖学講座	27,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
誰でも名精神科医に:客観定量的行動解析の活用による双極性障害診断精度の改良とそれによる治療支援法の開発	山末 英典	精神医学講座	5,850,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキシマブの検証的医師主導治験の実施	安田 日出夫	内科学第一講座	1,690,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	中村 和正	放射線腫瘍学講座	18,072,600	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
単純ヘルペスチミジンキナーゼ発現エピソーマルベクターによる間葉系幹細胞製剤の非ウイルス的製法の開発	山崎 友裕	脳神経外科学講座	4,852,000	補 委	国立大学法人東海国立大学機構
ビフィズス菌を利用した経口がんワクチンによる進行性尿路上皮癌を対象とした医師主導治験	田村 啓多	泌尿器科	2,600,000	補 委	国立大学法人神戸大学
経食道運動誘発電位に用いる刺激電極の開発	鷲山 直己	第一外科診療科群	3,343,055	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirano Y, Tsuriya D, Kono K, et al	リハビリテーション科	Association between muscle fatigability and diabetic kidney disease complications in patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Complications. 2025 Feb ; 39(2):108955.	Original Article
2	Hirano Y, Fujikura T, Yamaguchi T, et al	リハビリテーション科	The Association Between the Perception of Exercise Benefits and Barriers and Exercise Self-Efficacy During the Induction Phase of Dialysis in Patients with End-Stage Kidney Disease: A Cross-Sectional Study.	J Clin Med. 2024 Oct 23 ; 13(21):6332. (オンライン)	Original Article
3	Hirano Y, Fujikura T, Kono K, et al	リハビリテーション科	Effect of rehabilitation on renal outcomes after acute kidney injury associated with cardiovascular disease: a retrospective analysis.	BMC Nephrol. 2024 Jul 12 ; 25(1):222. (オンライン)	Original Article
4	Joko S, Hashimoto T, Yamashita M, et al	検査部	Glucagon change rate after glucose load: a potential key for tailoring treatment in gestational diabetes mellitus.	Diabetol Int. 2025 Jan 27 ; 16(2):348-355. (オンライン)	Original Article
5	Oguma T, Kanazawa T, Kaneko YK, et al	臨床研究センター	Effects of phospholipid type and particle size on lipid nanoparticle distribution in vivo and in pancreatic islets.	J Control Release. 2024 Sep ; 373:917-928.	Original Article
6	Ishida N, Egami T, Takebe T, et al	消化器内科(第一内科)	Effect of past extensive ulcers on fecal calprotectin in ulcerative colitis.	BMC Gastroenterol. 2024 Nov 25 ; 24(1):426. (オンライン)	Original Article
7	Ishida N, Osawa S, Sugiura K, et al	消化器内科(第一内科)	Characteristics of Esophageal Squamous Cell Carcinomas Based on Circumferential Localization.	JGH Open. 2024 Dec 6 ; 8(12):e70063. (オンライン)	Original Article
8	Tamura S, Asai Y, Ishida N, et al	消化器内科(第一内科)	Ustekinumab effectiveness in Crohn's disease with lesions in the intestines.	Medicine (Baltimore). 2024 Apr 12 ; 103(15):e35647.	Original Article
9	Kakizawa K, Yamashita M, Kawauchi Y, et al	消化器内科(第一内科)	Evaluating the usefulness of plasma chromogranin A measurement in cyclic ACTH-dependent Cushing's syndrome.	Endocr J. 2024 Oct 1 ; 71(10):995-1002.	Case Report
10	Chida T, Ohta K, Noritake H, et al	消化器内科(第一内科)	Lysyl oxidase-like 2 as a predictor of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis C virus after sustained virological response.	Sci Rep. 2024 May 13 ; 14(1):10864. (オンライン)	Original Article
11	Fujikura T, Isobe S, Oikawa S, et al	消化器内科(第一内科)	Comparison of seroconversion rates after hepatitis B vaccination in patients with advanced chronic kidney disease and those receiving maintenance hemodialysis.	Clin Exp Nephrol. 2025 Mar 4.	Original Article
12	Watanabe K, Bunai T, Sakamoto M, et al	消化器内科(第一内科)	A family with neuronal intranuclear inclusion disease with focal segmental glomerulosclerosis.	J Neurol. 2024 Sep ; 271(9):6227-6237.	Case Report
13	Hozumi H, Endo Y, Kono M, et al	内分泌・代謝内科(第二内科)	Hypnotics and Mortality in Idiopathic Pulmonary Fibrosis: Hospital and National Data-Based Analysis.	Chest. 2025 Apr ; 167(4):1107-1119.	Original Article
14	Karayama M, Suda T, Yoh K, et al	内分泌・代謝内科(第二内科)	Difference in efficacy of osimertinib between patients with EGFR-positive NSCLC with postoperative recurrence and those with de novo unresectable disease: A prospective, observational study.	Lung Cancer. 2024 Dec ; 198:108037.	Original Article
15	Fukada A, Enomoto Y, Horiguchi R, et al	内分泌・代謝内科(第二内科)	Integrin I±8 is a useful cell surface marker of alveolar lipofibroblasts.	Respir Res. 2025 Jan 13 ; 26(1):14. (オンライン)	Original Article
16	Inoue Y, Inui N	内分泌・代謝内科(第二内科)	Associations between Immune-related Adverse Events and Prognosis in Cancer Patients Receiving Immune Checkpoint Inhibitor Therapy.	Intern Med. 2024 Nov 21.	Original Article
17	Miyashita K, Hozumi H, Furuhashi K, et al	内分泌・代謝内科(第二内科)	Outcomes of COVID-19 in the Omicron-predominant wave: large-scale real-world data analysis with a comparison to influenza.	Pneumonia (Nathan). 2025 Feb 5 ; 17(1):3. (オンライン)	Original Article

18	Tanaka Y, Fujisawa T, Yazawa S, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Obesity impairs ciliary function and mucociliary clearance in the murine airway epithelium.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2024 Sep 1 ; 327(3):L406-L414.	Original Article
19	Hozumi H, Miyashita K, Nakatani E, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Antifibrotics and mortality in idiopathic pulmonary fibrosis: external validity and avoidance of immortal time bias.	Respir Res. 2024 Jul 31 ; 25(1):293. (オンライン)	Original Article
20	Enomoto N, Nakai S, Yazawa S, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	CXCL10 predicts autoimmune features and a favorable clinical course in patients with IIP: post hoc analysis of a prospective and multicenter cohort study.	Respir Res. 2024 Sep 28 ; 25(1):346. (オンライン)	Original Article
21	Enomoto N	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Relationship between idiopathic interstitial pneumonias (IIPs) and connective tissue disease- related interstitial lung disease (CTD-ILD): A narrative review.	Respir Investig. 2024 May ; 62(3):465-480.	Original Article
22	Naoi H, Suzuki Y, Miyagi A, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	CD109 Attenuates Bleomycin-induced Pulmonary Fibrosis by Inhibiting TGF- $\beta$ 2 Signaling.	J Immunol. 2024 Apr 1 ; 212(7):1221-1231.	Original Article
23	Watanabe H, Inoue Y, Karayama M, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Characterization of BRAF(Thr599dup) Mutation as a Targetable Driver Mutation Identified in Lung Adenocarcinoma by Comprehensive Genomic Profiling.	JCO Precis Oncol. 2024 Apr ; 8:e2300538.	Case Report
24	Watanabe H, Inoue Y, Tsuchiya K, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Lethal co-expression intolerance underlies the mutually exclusive expression of ASCL1 and NEUROD1 in SCLC cells.	NPJ Precis Oncol. 2025 Mar 13 ; 9(1):74. (オンライン)	Original Article
25	Tanaka Y, Suzuki Y, Saku A, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Standardized 3D-CT lung volumes for patients with acute exacerbation of rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease.	Rheumatology (Oxford). 2024 Apr 2 ; 63(4):1162- 1171.	Original Article
26	Suzuki Y	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis: A review of the previous literature and current knowledge.	Respir Investig. 2025 Jan ; 63(1):127-137.	Original Article
27	Inui N, Suzuki T, Tanaka K, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Olanzapine Plus Triple Antiemetic Therapy for the Prevention of Carboplatin-Induced Nausea and Vomiting: A Randomized, Double-Blind, Placebo- Controlled Phase III Trial.	J Clin Oncol. 2024 Aug 10 ; 42(23):2780-2789.	Original Article
28	Yasui H, Oishi K, Nihashi F, et al	内分泌・代謝内科(第二内 科)	Factors associated with uncontrolled severe asthma in the biologic era.	Respir Med. 2025 Jan ; 236:107881.	Original Article
29	Sato R, Sakamoto A, Suwa K, et al	循環器内科(第三内 科)	Alcohol septal ablation in drug-refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy patient with multiple comorbidities.	J Cardiol Cases. 2024 Sep 23 ; 31(1):5-8. (オンライン)	Case Report
30	Saotome M, Maekawa Y	循環器内科(第三内 科)	A Japanese Woman with Polygenic Familial Hypercholesterolemia Who Exhibited Trivial Atherosclerosis.	Intern Med. 2024 ; 63(15):2111-2112.	Original Article
31	Suwa K, Naruse Y, Nabeta T, et al	循環器内科(第三内 科)	Cardiac sarcoidosis treated with nonsteroidal immunosuppressive therapy.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 Jul 23 ; 53:101473. (オンライン)	Original Article
32	Yamasue H	精神科神経科	New finding of brain molecular mechanisms of obsessive-compulsive disorder may uncover those of treatment-resistant cases.	Psychiatry Clin Neurosci. 2025 Feb ; 79(2):47.	Original Article
33	Sato M, Torii K	心臓血管外科(第一外 科)	Little influence of the abandoned sac on seroma formation following laparoscopic transabdominal preperitoneal repair of lateral inguinal hernia.	Surg Endosc. 2025 Mar ; 39(3):1740-1748.	Original Article
34	Torii K, Sato M	心臓血管外科(第一外 科)	Percutaneous inguinal canal semi-closure during laparoscopic repair for large indirect inguinal hernia.	Surg Endosc. 2025 Mar ; 39(3):2037-2043.	Original Article
35	Oishi T, Koizumi S, Kurozumi K	脳神経外科	Mesenchymal stem cells as therapeutic vehicles for glioma.	Cancer Gene Ther. 2024 Sep ; 31(9):1306-1314.	Original Article
36	Koizumi S, Oishi T, Iwaizumi M, et al	脳神経外科	Genomic medicine advances for brain tumors.	Int J Clin Oncol. 2024 Oct ; 29(10):1407-1416.	Original Article
37	Maruyama G, Sameshima T, Tsuchida T, et al	脳神経外科	Cavernous Sinus Meningioma of the Oculomotor Nerve in a Child: A Surgical Case Study.	Asian J Neurosurg. 2024 Jun 5 ; 19(2):338-341. (オ ンライン)	Case Report

38	Okazaki A, Yamasaki T, Kataoka E, et al	脳神経外科	Clinical Benefits of Arterial Spin-Labeling Magnetic Resonance Imaging for Primary Diffuse Large B-cell Lymphoma of the Central Nervous System Presenting With Lymphomatosis Cerebri: A Case Report.	Cureus. 2024 Aug 23 ; 16(8):e67577. (オンライン)	Case Report
39	Mochizuki Y, Neki H, Kamio Y, et al	脳神経外科	Utility of catheter-shaping using mixed-reality devices in cerebral aneurysm coil embolization.	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Sep ; 244:108412.	Original Article
40	Koizumi S, Iwaizumi M, Baba S, et al	脳神経外科	Genomic analysis revealing Lynch syndrome in a case of high-grade glioma: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2025 Mar 3 ; 9(9):CASE24718. (オンライン)	Original Article
41	Arima H, Yamato Y, Shibata Y, et al	整形外科	Validation of the Japanese version of the scoliosis research society-30 questionnaire for adult patients with spinal deformity.	J Orthop Sci. 2024 Nov 25:S0949-2658(24)00256-2.	Original Article
42	Yotsuya K, Yamazaki K, Sarukawa J, et al	整形外科	Relationship between the perioperative prognostic nutritional index and postoperative gait function in elderly hip fractures.	Osteoporos Sarcopenia. 2024 Jun ; 10(2):72-77.	Original Article
43	Ide K, Yamato Y, Hasegawa T, et al	整形外科	Implications of the diagnosis of locomotive syndrome stage 3 for long-term care.	Osteoporos Sarcopenia. 2024 Jun ; 10(2):89-94.	Original Article
44	Hanada M, Hotta K, Matsuyama Y	整形外科	Difficulty in bone union after arthrodesis to treat Charcot arthropathy of the foot and ankle.	J Orthop. 2024 Oct 10 ; 62:13-16. (オンライン)	Original Article
45	Hanada M, Hotta K, Matsuyama Y	整形外科	Femoral trochlear groove cartilage damage after open-wedge high tibial osteotomy is associated with the change in patellar height relative to the femoral condyle.	Orthop Traumatol Surg Res. 2024 Nov ; 110(7):103898.	Original Article
46	Yotsuya K, Sarukawa J, Yamazaki K, et al	整形外科	Background factors for intra-operative hypotension during hip fracture repair surgery in the elderly under spinal anesthesia managed by orthopedic surgeons: A retrospective case-control study.	Injury. 2024 Jun ; 55(6):111549.	Original Article
47	Yamato Y, Hasegawa T, Yoshida G, et al	整形外科	Reply to letter to the editor by Y. Liu et al.	J Orthop Sci. 2024 Sep ; 29(5):1338.	Letter
48	Oe S, Swamy G, Gagliardi M, et al	整形外科	Wound Closure and Wound Dressings in Adult Spinal Deformity Surgery From the AO Spine Surveillance of Post-Operative Management.	Global Spine J. 2025 Jan ; 15(1):152-160.	Original Article
49	Hanada M, Hotta K, Matsuyama Y	整形外科	Impact of implant positions in total knee arthroplasty on the postoperative knee kinematics of tibial rotation.	J Orthop. 2024 Jun 22 ; 58:24-28. (オンライン)	Original Article
50	Yamada T, Hasegawa T, Hasegawa T, et al	整形外科	Characteristics of the Preoperative and Surgical Findings in Patients With Bladder Dysfunction After Surgery for Spinal Myxopapillary Ependymoma.	Cureus. 2024 Oct 9 ; 16(10):e71139. (オンライン)	Original Article
51	Yamada T, Yamato Y, Hasegawa T, et al	整形外科	Effect of a Surgeon-Directed Cocktail of Ropivacaine, Methylprednisolone, and Ketoprofen on Postoperative Pain and Ambulation in Adolescent Idiopathic Scoliosis Surgery: A Double-Blind Randomized Controlled Trial.	Spine (Phila Pa 1976). 2025 Mar 28.	Original Article
52	Yamada T, Nakashima H, Machino M, et al	整形外科	Difference of Disk Degeneration and Segmental Range of Motion due to Lumbar Disk Level among Age and Gender: 639 Asymptomatic Volunteer Data.	Spine Surg Relat Res. 2024 Jul 10 ; 9(1):87-92. (オンライン)	Original Article
53	Banno T, Takahashi T, Fujii S, et al	整形外科	Age-specific Comparative Clinical Outcomes of Chemonucleolysis with Condoliase versus Microendoscopic Discectomy in Patients with Lumbar Disc Herniation.	Spine Surg Relat Res. 2024 Oct 29 ; 9(2):251-257. (オンライン)	Original Article
54	Banno T, Yamato Y, Hasegawa T, et al	整形外科	Residual T1 tilt could lead to poor self-image for patients with Lenke type 1 adolescent idiopathic scoliosis.	Spine Deform. 2025 May ; 13(3):811-819.	Original Article
55	Adachi N, Fukuchi K, Sugiyama T, et al	皮膚科	A case of chronic ulcerative herpes simplex virus infection in a patient with bullous pemphigoid.	J Dermatol. 2025 Jan ; 52(1):e32-e33.	Letter
56	Sugiyama T, Fukuchi K, Kitauchi Y, et al	皮膚科	A case of BRAF inhibitor-induced pancreatitis in a patient with malignant melanoma.	Eur J Dermatol. 2024 Oct 1 ; 34(5):563-564.	Original Article
57	Suzuki N, Shimauchi T, Baba S, et al	皮膚科	A case of indeterminate cell histiocytosis with ETV3-NCOA2 translocation.	J Dermatol. 2025 Feb ; 52(2):373-376.	Case Report

58	Matsushita Y, Tsuchiya Y, Ishikawa G, et al	泌尿器科	Comparing oncological outcomes and safety between photodynamic diagnosis-assisted and white-light transurethral resection in elderly patients with non-muscle invasive bladder cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2025 Mar 10:hyaf047.	Original Article
59	Watanabe H, Nakane K, Takahara K, et al	泌尿器科	Prognostic outcomes in Japanese patients with metastatic castration-sensitive prostate cancer: Comparative assessments between conventional androgen deprivation therapy (ADT) and ADT with novel androgen receptor signal inhibitor.	Int J Urol. 2024 Sep ; 31(9):986–993.	Original Article
60	Watanabe K, Otsuka A, Kitagawa Y, et al	泌尿器科	Preoperative factors predicting poor therapeutic efficacy of holmium laser enucleation of the prostate in patients with benign prostatic hyperplasia.	Low Urin Tract Symptoms. 2024 Jul ; 16(4):e12530.	Original Article
61	Sugiyama N, Yamada S, Nakamura Y, et al	耳鼻咽喉科	Epigenetic Modification of Muscarinic Acetylcholine Receptors in Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck.	Anticancer Res. 2025 Jan ; 45(1):81–95.	Original Article
62	Yamada S, Kano K, Ishikawa R, et al	耳鼻咽喉科	Cell-free DNA analysis for recurrent respiratory papillomatosis: A case report.	Clin Case Rep. 2024 Aug 6 ; 12(8):e9268. (オンライン)	Case Report
63	Tanahashi Y, Kubota K, Nomura T, et al	放射線診断科(放射線科)	Improved vascular depiction and image quality through deep learning reconstruction of CT hepatic arteriography during transcatheter arterial chemoembolization.	Jpn J Radiol. 2024 Nov ; 42(11):1243–1254.	Original Article
64	Nakamura K, Nihei K, Saito Y, et al	放射線治療科(放射線科)	A Japanese multi-institutional phase II study of moderate hypofractionated intensity-modulated radiotherapy with image-guided technique for prostate cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Jun ; 29(6):847–852.	Original Article
65	Omoto M, Aoki Y, Nakajima M, et al	麻酔科蘇生科	Epidemiological Investigation of Unplanned Intensive Care Unit Admissions From the Operating Room After Elective Surgery: A Nationwide Observational Study in Japan.	Anesth Analg. 2025 Feb 5.	Original Article
66	Ueda H, Kurita T, Kawashima S, et al	麻酔科蘇生科	Changes in the plasma protein-binding rate of remifentanil during cardiopulmonary bypass.	Br J Clin Pharmacol. 2025 Jan ; 91(1):151–156.	Original Article
67	Kurita T, Kawashima S, Khaleelullah MMSI, et al	麻酔科蘇生科	Transesophageal motor-evoked potentials, a novel method induced by transesophageal spinal cord stimulation, are less sensitive to anesthetics than transcranial motor-evoked potentials.	J Anesth. 2025 Apr ; 39(2):198–204.	Original Article
68	Yagihara M, Uemura A, Wakuda C, et al	麻酔科蘇生科	A Pediatric Epidural Catheter Fracture Suspected to Be Caused by a Glue.	Cureus. 2024 May 17 ; 16(5):e60524. (オンライン)	Case Report
69	Kimura T	麻酔科蘇生科	A novel technique to exchange tracheal tubes using an Aintree Intubation CatheterTM over an airway exchange catheter.	Minerva Anestesiol. 2024 Nov ; 90(11):1057–1058.	Original Article
70	Aoki Y, Nakajima Y	麻酔科蘇生科	A new perspective on amino acid infusion: from perioperative parenteral nutrition to renal protection.	JA Clin Rep. 2024 Jun 13 ; 10(1):40. (オンライン)	Letter
71	Kawashima S, Kimura T, Kinoshita H	麻酔科蘇生科	Esketamine and Postoperative Delirium: Accounting for Patient Age.	Anesth Analg. 2025 Apr 1 ; 140(4):e52–e53.	Original Article
72	Abe M, Hashimoto H, Soejima A, et al	産科婦人科	Shared decision-making in patients with gynecological cancer and healthcare professionals: a cross-sectional observational study in Japan.	J Gynecol Oncol. 2025 May ; 36(3):e47.	Original Article
73	Itoh H, Aoyama T, Kohmura- Kobayashi Y,	産科婦人科	Tauroursodeoxycholic acid as a beneficial modulator for developmentally programmed chromatin structure around specific genes.	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 Aug 26 ; 15:1211657. (オンライン)	Original Article
74	Yaguchi C, Ueda M, Mizuno Y, et al	産科婦人科	Association of Placental Pathology with Physical and Neuronal Development of Infants: A Narrative Review and Reclassification of the Literature by the Consensus Statement of the Amsterdam Placental Workshop Group.	Nutrients. 2024 Jun 6 ; 16(11):1786. (オンライン)	Original Article
75	Miyairi I, Miyazawa S, Takahashi Y, et al	小児科	Incidence of severe illness in pediatric influenza outpatients treated with baloxavir or neuraminidase inhibitors.	J Infect Chemother. 2025 Mar ; 31(3):102606.	Original Article
76	Ishikawa T, Masui D, Uchiyama H	小児科	Association Between Derivatives of Reactive Oxygen Metabolites and Hemodynamics in Children with Left-to-Right Shunt Congenital Heart Disease.	Antioxidants (Basel). 2024 Oct 25 ; 13(11):1294. (オンライン)	Original Article

77	Hiraide T, Hayashi T, Ito Y, et al	小児科	Case Report: Novel compound heterozygous TPRKB variants cause Galloway–Mowat syndrome.	Front Pediatr. 2024 Apr 3 ; 12:1360867. (オンライン)	Case Report
78	Masunaga Y, Kinjo K, Murai Y, et al	小児科	Insulin resistant diabetes mellitus in a girl with mild Rabson–Mendenhall syndrome: efficacy of sodium glucose co–transporter 2 inhibitor.	Diabetol Int. 2024 Nov 15 ; 16(1):182–187. (オンライン)	Case Report
79	Inui N	臨床薬理内科	Need for reassessment of the diagnosis of interstitial lung disease using a multidisciplinary discussion approach.	Respir Investig. 2025 Jan ; 63(1):33–34.	Original Article
80	Iijima S	周産母子センター	Use of Traditional Japanese Herbal Medicine Daikenchuto for the Treatment of Abdominal Distention in Very–Low–Birth–Weight Infants.	J Clin Med. 2024 Aug 27 ; 13(17):5082. (オンライン)	Original Article
81	Morita Y, Oda K, Matsumoto A, et al	肝・胆・膵外科(第二外科)	Intrahepatic Cholangiocarcinoma with BRCA Mutation Achieved Pathological Complete Response after Neoadjuvant Gemcitabine, Cisplatin, and S-1 Therapy: A Case Report.	Surg Case Rep. 2025 ; 11(1):24–0042.	Case Report
82	Iwaizumi M, Taniguchi T, Kojima R, et al	検査部	Two independent families with de novo whole APC gene deletion and intellectual disability: a case report.	Hered Cancer Clin Pract. 2025 Jan 8 ; 23(1):1. (オンライン)	Original Article
83	Karayama M, Inui N, Inoue Y, et al	腫瘍センター	Risk factors for relapse of immune–related pneumonitis after 6–week oral prednisolone therapy: a follow–up analysis of a phase II study.	BMC Pulm Med. 2024 Oct 8 ; 24(1):495. (オンライン)	Original Article
84	Sakaguchi K, Naito T, Hoshikawa K, et al	薬剤部	Characterization of plasma vonoprazan and CYP3A activity using its endogenous marker and genetic variants in patients with digestive system disorders.	Drug Metab Pharmacokinet. 2024 Oct ; 58:101027.	Original Article
85	Mino Y, Hoshikawa K, Naito T, et al	薬剤部	Potential amelioration of liver function by low–dose tolvaptan in heart failure patients.	Toxicol Rep. 2025 Mar 24 ; 14:102009. (オンライン)	Original Article
86	Ohishi A, Enomoto Y, Iwafuchi H, et al	周産母子センター	Autopsy case of linear nevus sebaceous syndrome with KRAS (G12D) mutation.	Pathol Int. 2024 Sep ; 74(9):538–545.	Case Report
87	Ohashi N, Sakao Y, Uchiyama Y, et al	卒後教育センター	Effects of salt reduction education from a salt questionnaire on inter–dialysis weight gain in patients on hemodialysis.	Clin Exp Nephrol. 2024 Dec ; 28(12):1311–1318.	Original Article
88	Sugita M, Tanaka H, Ogawa C, et al	歯科口腔外科	Could micro–marsupialization be an alternative treatment for Oral ranula? A case report and literature review	J ORAL MAX SURG MED.2025 MAR:37(2):5	Review
89	Odagiri K, Yamaguchi A, Yamazaki T, et al	臨床研究センター	Blood redox balance among male Japanese forestry workers before and after work	J FOREST RES–JPN.2025 MAR:30(2):9	Original Article
90	Takanashi Y, Shimmura K, Sekihara K, et al	呼吸器外科(第一外科)	Wild–Type Anaplastic Lymphoma Kinase Expression in Solitary Pulmonary Nodules: A Potential Marker for Primary Lung Squamous Cell Carcinoma in Patients With Previous Neck Squamous Cell Carcinoma.	Cureus. 2024 Apr 11 ; 16(4):e58051. (オンライン)	Case Report
91	Enomoto Y, Arai Y, Meguro S, et al	病理診断科	Goblet Cell Adenocarcinoma in the Stomach: A Case Report.	Cureus. 2024 Apr 19 ; 16(4):e58592. (オンライン)	Case Report
92	Takanashi Y, Kahyo T, Sekihara K, et al	外科学第一講座	Prognostic potential of lipid profiling in cancer patients: a systematic review of mass spectrometry–based studies.	Lipids Health Dis. 2024 May 25 ; 23(1):154. (オンライン)	Original Article
93	Takeda M, Morita Y, Akai T, et al	肝・胆・膵外科(第二外科)	Effects of povidone–iodine wound irrigation on surgical site infection in gastroenterological surgery: A randomized controlled trial.	Surgery. 2024 Aug ; 176(2):371–378.	Original Article
94	Sekihara K, Kawase A, Matsubayashi Y, et al	呼吸器外科(第一外科)	Impact of smoking on resected lung cancer depends on epidermal growth factor receptor mutation.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Jul 3 ; 39(1):ivae109.	Original Article
95	Booka E, Takeuchi H, Kikuchi H, et al	上部消化管外科(第二外科)	A nationwide survey on the safety of cricothyrotomy: a multicenter retrospective study in Japan.	Esophagus. 2025 Jan ; 22(1):19–26.	Original Article
96	Meguro S, Kawasaki H, Kosugi I, et al	病理部	A Case of Brunner's Gland Hyperplasia Accompanied by an Increase in Endocrine Cells and Endocrine Cell Micronests.	Cureus. 2024 Sep 5 ; 16(9):e68688. (オンライン)	Case Report

97	Shimonodan H, Sakaguchi K, Ishihara T, et al	小児科	Silent inactivation of asparaginase in Japan: results of the prospective ALL-ASP19 trial.	Int J Hematol. 2024 Dec ; 120(6):725–734.	Original Article
98	Kikuchi H, Booka E, Hiramatsu Y, et al	上部消化管外科(第二外科)	Essential updates 2022/2023: Recent advances in perioperative management of esophagectomy to improve operative outcomes.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Jul 29 ; 8(6):966–976. (オンライン)	Original Article
99	Yoshimura K, Zou G, Fan Y, et al	病理部	HSP90 inhibitor AUY922 suppresses tumor growth and modulates immune response through YAP1–TEAD pathway inhibition in gastric cancer.	Cancer Lett. 2025 Feb 1 ; 610:217354.	Original Article
100	Takei K, Takanashi Y, Shibata M, et al	外科学第一講座	Mediastinal Extralobar Pulmonary Sequestration Concurrent With Spontaneous Pneumothorax: A Case Report of Difficult Preoperative Diagnosis.	Cureus. 2024 Nov 4 ; 16(11):e72959. (オンライン)	Case Report
101	Tsuda K, Washiyama N, Hirano M, et al	心臓血管外科(第一外科)	Preoperative loop length determination for mitral valve repair by 4-dimensional computed tomography.	JTCVS Tech. 2024 Sep 11 ; 28:41–46. (オンライン)	Original Article
102	Sekihara K, Natsume K, Tajiri T, et al	呼吸器外科(第一外科)	Direct aortic suture technique for anomalous systemic arterial supply to the basal lung: A retrospective cohort study.	GHM Open. 2024 Nov 30 ; 4(2):91–94.	Original Article
103	Yoshizawa Nobuko	放射線診断科(放射線科)	Imaging of breast cancer using reflectance diffuse optical tomography (RDOT).	OPTICAL REVIEW・2025/02/28	Original Article
104	Hanada Mitsuru	卒後教育センター	Impact of the sagittal spinopelvic and coronal lower extremity alignments on clinical outcomes after medial unicompartmental knee arthroplasty.	Journal of orthopaedics・2024/08	Original Article
105	Enomoto Noriyuki	呼吸器内科(第二内科)	Radiological and histopathological features and treatment response by subtypes of interstitial pneumonia with autoimmune features: A prospective, multicentre cohort study.	Respiratory medicine・2024/04	Original Article
106	Yuzo Suzuki	内科学第二講座	Prognostic value of CT assessment of normal lung volume in upper-lobe in idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis.	ERJ Open Research・2024/11	Original Article
107	Yamato Yu	整形外科学講座	Comment on Yamato et al.: Impact of multi-rod reinforcement on rod fractures in adult spinal deformity: A retrospective case series with a minimum follow up of 5 years Reply.	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC SCIENCE・2024/09	Letter
108	Takuya Hiraide	小児科	Familial hyperCKemia with exercise-induced myalgia associated with a novel missense variant in RYR1.	Brain and Development Case Reports・2024/09	Case Report
109	Yosuke Kameno	精神医学講座	TESTING NEUROINFLAMMATORY HYPOTHESIS OF MAJOR DEPRESSIVE DISORDER: A DOUBLE TRACER PET STUDY.	International Journal of Neuropsychopharmacology・2025/02/12	Letter
110	Sano, Masaki	森町地域包括ケア講座	Prediction of Sac Enlargement Due to Type 2 Endoleaks After EVAR Using CT Images and Hemodynamic 4D Flow MRI Analyses.	JOURNAL OF VASCULAR SURGERY・2024/04	Letter
111	Sano Makoto	循環器内科(第三内科)	Rate-dependent elevation of the capture threshold after implantation of a leadless pacemaker.	Pacing and clinical electrophysiology : PACE・2024/07	Case Report
112	Banno Tomohiro	森町地域包括ケア講座	Efficacy of Chemonucleolysis with Condoliase in Patients Aged under 20 Years.	Spine surgery and related research・2024/09/27	Original Article
113	Arima Hideyuki	整形外科	The Validation of the Japanese Version of the Scoliosis Research Society-30 Questionnaire for Adolescent Idiopathic Scoliosis Patients.	Spine surgery and related research・2024/05/27	Original Article
114	Arima Hideyuki	整形外科	Cost-Effectiveness of Corrective Fusion Surgeries for Adult Spinal Deformities: Does Unexpected Revision Surgery Affect Cost-Effectiveness?	Spine surgery and related research・2024/05/27	Original Article
115	Matsushita Yuto	泌尿器科	Prognostic outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma receiving second-line treatment with tyrosine kinase inhibitor following first-line immune-oncology combination therapy.	International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association・2024/05	Original Article
116	Ogura Yasuaki	皮膚科	A spectrum of BAP1 expression from naevus to melanoma in a patient with BAP1 tumour predisposition syndrome.	CLINICAL AND EXPERIMENTAL DERMATOLOGY・2025/03/07	Letter

117	Kensuke Takei	呼吸器外科(第一外科)	Association between recovery from desaturation after stair climbing and postoperative complications in lung resection.	General Thoracic Cardiovascular Surgery・2024/07/15	Original Article
118	Kensuke Takei	呼吸器外科(第一外科)	Surgical resection following chemoradiotherapy for thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumor: a report of two cases.	Surgical Case Reports・2024/11/05	Case Report
119	Kensuke Takei	呼吸器外科(第一外科)	Pulmonary metastasis originating from colonic mucinous adenocarcinoma with a tree-in-bud pattern on computed tomography: A case report.	Respiratory Medicine Case Reports・2025/03/15	Case Report

計119件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 卷数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	有馬 秀幸,大和 雄,長谷川 智彦 他	整形外科	骨粗鬆症が成人脊柱変形に対する広範囲矯正固定術の中長期臨床成績および再手術に与える影響	Journal of Spine Research ; 2024.10:15:1234-1242	Original Article
2	有馬 秀幸,大和 雄,長谷川 智彦 他	整形外科	成人脊柱変形に対するゴムの収縮を利用した下肢骨格筋サポート装具の歩行改善効果	Journal of Spine Research ; 2024.06:15:969-978	Original Article
3	四谷 久美子,山崎 薫,松山 幸弘	整形外科	急性期病院における大腿骨近位部骨折患者の術後栄養状態と歩行機能の検討	日本骨粗鬆症学会雑誌 ; 2024.08:10:349-357	Original Article
4	吉田 剛,後迫 宏紀,長谷川 智彦 他	整形外科	小児側弯症矯正手術における術中脊髄モニタリング	日本脊髄障害医学会雑誌 ; 2024.07:37:154-159	Original Article
5	古森 美和,彦谷 明子,荒川 あかり 他	眼科	外直筋Y-split鼻側移動術を行った完全動眼神経麻痺の3例	眼科臨床紀要 ; 2025.02:18:107-112	Original Article
6	高木 合伍,君田 健太郎,野々山 宏樹 他	眼科	ニボルマブまたはイピリムマブによる薬剤性視神経症が疑われた1例	臨床眼科 ; 2024.05:78:585-591	Original Article
7	三浦 駿大,高山 理和,山崎 智幸 他	眼科	原発性マクログロブリン血症による視力低下が内科的治療により改善した1例	臨床眼科 ; 2024.06:78:756-762	Original Article
8	和久田 千晴,川島 信吾,杉村 翔 他	麻酔科蘇生科	喀血を伴う部分肺静脈還流異常合併妊婦の麻酔経験	Cardiovascular Anesthesia ; 2024.09:28:129-134	Original Article
9	北條 貴子,水野 馨子,渋谷 孝起 他	形成外科	微小結節型基底細胞癌に対して複数回の追加切除と再建を行った2例	Skin Cancer ; 2025.02:39:278-286	Original Article
10	廣川 達紀,辻岡 徹,高柳 勇太 他	リハビリテーション部	人工股関節全置換術後のTUGに関する因子	Hip Joint ; 2024.08:50:S1-S4	Original Article
11	乙部 恵美子,尾熊 貴之,清水 幹裕 他	臨床研究センター	特定臨床研究のモニタリング報告書・監査報告書からみえるCRC支援の成果 載せ替え審査を受けた課題において	臨床薬理 ; 2024.05:55:133-137	Original Article
12	小田切 圭一,安井 秀樹,龍口 万理子 他	臨床研究センター	浜松医科大学医学部医学科4年生の将来の治験・臨床研究への参画意識 大規模言語モデルを用いたテキストマイニングによる分析	臨床薬理 ; 2024.11:55:253-260	Original Article
13	尾熊 貴之,小田切 圭一,佐藤 美奈都 他	臨床研究センター	浜松医科大学医学部附属病院臨床研究センターCRCが防止した特定臨床研究に関する不適合の実態と院内講習会実施によるGood practiceの動向調査	臨床薬理 ; 2024.05:55:139-144	Original Article
14	村上 智洋,古橋 曜,境井 勇気 他	血管外科(第二外科)	平上皮癌におけるProgrammed cell Death ligand 1(PD-L1)発現の臨床病理学的意義及び予後への影響	リンパ学 ; 2024.12:47:91-97	Original Article

15	羽田 綾馬,境 井 勇気,関森 健一 他	血管外科(第二外科)	食道癌周術期の栄養と運動 早期回復に向けての取り組みと課題	外科と代謝・栄養 ; 2024.12:58:216-222	Review
16	坂野 友啓,長 谷川 智彦,大 和 雄 他	整形外科	腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ治療著効例の検討	Journal of Spine Research ; 2024.06:15:901-906	Original Article
17	杉山 健太,猿 川 潤一郎,安 田 達也 他	整形外科	患者インフォームドコンセントにおける人工知能の活用	中部日本整形外科災害外 科学会雑誌 ; 2024.05:67:297-298	Original Article
18	森本 広樹,栗 原 和生,安岡 竜平 他	皮膚科	【他科との連携が重要な皮膚病】orofacial granulomatosisの発症を契機にCrohn病の診断に至った小児例	皮膚病診療 ; 2025.01:47:36-39	Original Article
19	小倉 康晶,近 藤 峻平,大塚 正樹 他	皮膚科	【困ってしまう顔の皮疹】赤芽球性プロトポルフィリン症	皮膚病診療 ; 2024.05:46:426-429	Original Article
20	山崎 智幸,成 瀬 翔,藤巻 拓郎 他	眼科	眼・顔面・心臓・歯(OFCD)症候群の日本人症例 遺伝子型および表現型の分析	日本眼科学会雑誌 ; 2025.01:129:28-35	Original Article
21	有谷 拓実,立 花 信貴,高木 啓伍 他	眼科	多彩な眼合併症を呈した小児鈍的眼外傷の1例	眼科臨床紀要 ; 2024.10:17:739-742	Original Article
22	伊東 宏晃	産科婦人科	日本のたんぱく質栄養～新知見と次世代への提案～胎生期低栄養とグルココルチコイド 妊娠中のタンパク質摂取との関わり	アミノ酸研究 ; 2024.08:17:19-21	Original Article
23	乾 直輝	臨床薬理内科	皮膚科医に知ってほしい肺サルコイドーシス	皮膚科	Others
24	上島 佑介	放射線部	体表面画像誘導放射線治療における総説: IDENTIFY	臨床放射線	Review
25	大石 彰	周産母子センター	鉗子による分娩時角膜損傷	浜松医科大学小児科学雑誌	Original Article
26	上島 佑介	放射線部	CyberKnifeR を用いた動体追尾定位放射線治療の安全性と精度の保証	聖隸浜松病院医学雑誌	Original Article
27	福田 冬季子	遺伝子診療部	糖原病のアンメットニーズと診断・治療法の進歩	浜松医科大学小児科学雑誌	Review
28	成味 恵	産科婦人科	子宫鏡の併用が有用であったWunderlich症候群に対する腔開窓術の一例	東海産婦人科内視鏡手術 研究会雑誌	Case Report
29	小田切 圭一	臨床研究センター	浜松医科大学医学部医学科4年生の将来の治験・臨床研究への参画意識:大規模言語モデルを用いたテキストマイニングによる分析	臨床薬理	Original Article

計29件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものと記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

## (1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の主な内容</li> </ul> <p>ア 倫理委員会の役割・責務等      イ 倫理委員会の業務      ウ 倫理委員会の運営      エ 倫理委員会における審査      オ 倫理委員会事務局の業務</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
 2 前年度の実績を記載すること。

## (2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定の主な内容</li> </ul> <p>ア 利益相反マネジメントの目的・対象・対象者      イ 利益相反マネジメント委員会の設置・審議事項・組織      ウ 利益相反マネジメントのための調査方法      エ 審議、勧告、決定等の手続き      オ 臨床研究に関する調査等      カ 研修・啓発活動</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>ア 臨床研究の倫理</li><li>イ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針</li><li>ウ 臨床研究に関する法規制</li><li>エ 臨床研究における研究不正と行動規範</li><li>オ 臨床試験の計画と準備、実施医療機関の組織と運用</li><li>カ 被験者の募集、組み込みと参加継続</li><li>キ 臨床研究とデータサイエンス</li></ul></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科プログラム、精神科プログラム、小児科プログラム、外科プログラム、脳神経外科プログラム、整形外科プログラム、皮膚科プログラム、泌尿器科プログラム、眼科プログラム、耳鼻咽喉科・頭頸部外科プログラム、産婦人科プログラム、放射線科プログラム、麻酔科プログラム、リハビリテーション科プログラム、形成外科プログラム、臨床検査プログラム、病理診断科プログラム、救急科プログラム、総合診療プログラム、口腔外科専門医取得プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	97人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大橋 温	内科	特任准教授	29年	
杉本 健	消化器内科	教授	32年	
安田 日出夫	腎臓内科	准教授	30年	
松下 明生	内分泌・代謝内科	講師	32年	
藤澤 朋幸	呼吸器内科	講師	28年	
川田 一仁	肝臓内科	准教授	26年	
前川 裕一郎	循環器内科	教授	30年	
永田 泰之	血液内科	講師	22年	
下山 久美子	免疫・リウマチ内科	病院講師	25年	
中村 友彦	脳神経内科	特任教授	30年	
山末 英典	精神科神経科	教授	27年	
宮入 烈	小児科	教授	30年	
竹内 裕也	外科	教授	33年	
鷺山 直己	心臓血管外科	病院准教授	33年	
船井 和仁	呼吸器外科	特任教授	29年	
小泉 圭	乳腺外科	病院講師	24年	
竹内 裕也	消化器外科	教授	33年	
犬塚 和徳	血管外科	講師	28年	
黒住 和彦	脳神経外科	教授	28年	
松山 幸弘	整形外科	教授	37年	
本田 哲也	皮膚科	教授	25年	
稻元 輝生	泌尿器科	教授	27年	
兼子 裕規	眼科	教授	23年	
三澤 清	耳鼻咽喉科	教授	30年	
小谷 友美	産科婦人科	教授	29年	
五島 聰	放射線科	教授	25年	
中村 和正	放射線科	教授	37年	
中島 芳樹	麻酔科蘇生科	教授	38年	
増本 一真	歯科口腔外科	教授	31年	(歯科医師免許: 31年)
山内 克哉	リハビリテーション科	教授	31年	

中川 雅裕	形成外科	教授	34年	
乾 直輝	臨床薬理内科	教授	32年	
岩泉 守哉	検査部	准教授	25年	
馬場 聰	病理診断科	病院教授	40年	
澤井 利夫	小児外科	特任教授	36年	
渥美 生弘	救急科	教授	29年	
井上 真智子	総合診療科	特任教授	28年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

看護部は、社会のニーズに応えられる大学病院の看護専門職として、倫理に基づいた、質の高い看護を提供できる創造性のある看護職の育成を目指している。5段階のキャリアラダーを導入しており、各ラダーに求められる能力（看護実践能力・組織的役割遂行能力・自己教育研究能力）の習得を目標にラダー別の研修を実施している。その他に、専門分野別研修として、院内認定静脈注射研修、院内認定がん看護専門教育コース、院内認定倫理コーディネーター養成コースの3研修、その他管理者研修、看護補助者研修等を実施している。全職員を対象とした、BLS、ICLS、講演会等も実施している。

・研修の期間・実施回数

令和6年4月1日～令和7年3月31日 看護部研修：82研修 延べ研修時間：369時間

・研修の参加人数

延べ 5992人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

看護部：上記①を参照

全体研修：未承認新規医薬品の使用について、高難度新規医療技術の提供、診療録の管理、インスリン製剤の取扱や保管等の改善、等

・研修の期間・実施回数

①2024年5月22日 ②2024年7月31日

・研修の参加人数

①1920人（e-learning受講含む） ②1916人（e-learning受講含む）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	竹内 裕也
管理担当者氏名	総務課長：大隅孝文／人事課長：大石真由美／医事課長：服部次男／ 病院総務課長：毎田智春／医療安全管理室長：三澤清／ 感染制御センター長：古橋一樹／薬剤部長：川上純一／放射線部長：五島聰／ 手術部長・医療機器管理部長：中島芳樹／看護部長：佐々木菜名代／ 診療情報管理部長：杉本健

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 に規則第十二条の三第二項 に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	全科電子カルテを導入。 カルテは、一患者1IDとし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。 診療録の院外持ち出しは禁止している。
	各科診療日誌	医事課	
	処方せん	薬剤部	
	手術記録	医事課	
	看護記録	医事課	
	検査所見記録	医事課	
	エックス線写真	放射線部	
	紹介状	医事課	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録 に規則第十二条の三第三項 に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	病院総務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	
	高度の医療の研修の実績	病院総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	病院総務課・医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	病院総務課・医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	病院総務課・医療安全管理室	
に規則第一項 に掲げる事項	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	病院総務課・医療安全管理室	

			保管場所	管理办法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第一条の十二項第一号から第三号までに掲げる事項	規則第一条の十二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	病院総務課・感染制御センター	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	病院総務課・感染制御センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院総務課・感染制御センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	病院総務課・感染制御センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療機器管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	病院総務課・医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	病院総務課・感染制御センター	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課・診療情報管理部	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課・診療情報管理部	
	医療安全管理部門の設置状況	病院総務課・医療安全管理室	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院総務課・医療安全管理室	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
	監査委員会の設置状況	病院総務課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	病院総務課・医療安全管理室	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	病院総務課・医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院総務課・医療安全管理室	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院総務課・医療安全管理室	
	職員研修の実施状況	病院総務課・医療安全管理室	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院総務課・医療安全管理室	
	管理者が有する権限に関する状況	病院総務課・人事課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	企画評価課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>1 安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項</li> <li>3 医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4 事故報告の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針</li> <li>5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6 職員と患者との間の情報共有に関する基本方針</li> <li>7 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8 その他医療安全の推進のための必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 開催状況 : 年 12 回</li> <li>・ 活動の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>医療の安全管理の体制の確保に関すること</li> <li>医療事故等の把握、分析、対処改善、評価及び見直しに関するこ</li> <li>医療に係る安全管理のための職員の研修に関するこ</li> <li>その他の医療の安全管理に関するこ</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :           <ul style="list-style-type: none"> <li>【医療安全講習会】 2回 (全職員対象)</li> <li>【職種・部署別】 新採用職員ガイダンス : 1回、新採用看護師研修 : 2回 看護師採用時研修 : e-learning、看護助手採用時研修 : e-learning、 看護助手研修 : 1回、静脈注射院内認定看護師研修 : e-learning 新採用・中途採用職員 (看護部職員以外) : e-learning 看護職員 (育休復帰者) : e-learning</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報をもとに、A) 外部参加型事例調査、B) 院内事例調査、 C) M&amp;Mカンファレンス、D) 部署内検証レビュー、E) 医療安全管理室の カンファレンス、F) 医師並びに看護師GRMが検証、G) 検証不要に分類し 必要なスタッフで事例検証し、問題点を分析し、改善策を立案し、 現場スタッフにフィードバックしている。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策に関する管理組織機構</li> <li>3. 従業者研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等への情報提供と説明に関する基本方針</li> <li>7. 感染対策に関する地域医療機関との連携</li> <li>8. その他院内感染対策及び抗菌薬適正使用推進のための基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策の検討・推進</li> <li>2. 院内感染防止の対応及び原因究明</li> <li>3. 院内感染等の情報収集及び分析（抗菌薬の使用状況、分離菌種などの情報を含む）</li> <li>4. 院内感染防止策及び抗菌薬適正使用に関する従業者の教育・研修</li> <li>5. 従業者の感染管理</li> <li>6. その他感染予防及び感染対策に関する事項</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：           <p>【院内感染対策講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3回（全職種対象）</li> </ul> <p>【職種・部署別】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修医ガイダンス：1回 32名（講義：院内感染対策について 研修：採血、針の取り扱い）</li> <li>・ 新採用看護師研修：1回 75名</li> <li>・ 新採用・中途採用職員への感染対策研修 計 271 名（医師157名、研修医32名、看護師5名、コメディカル46名、事務31名）</li> <li>・ 受託実習生感染対策講習 計 14 部署 104 名（リハビリテーション部、救急部、栄養部、医療機器管理部、精神科神経科、NST、薬剤部、放射線部、検査部、手術部、輸血・細胞治療部、眼科、医療福祉センター、造血細胞移植センター）</li> <li>・ 部署別感染対策勉強会：7回（8階東病棟、6階東病棟、外来、手術部、リハビリテーション部 内視鏡センター、放射線部）</li> <li>・ 復職者への感染対策研修：38名</li> </ul> <p>【委託・派遣職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委託・派遣職員感染対策講習 5回（2社 計 27 名）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> <li>・ ICTラウンド（週1回）、病棟環境ラウンドおよびサニタリーラウンドによる感染対策の実施状況および環境整備の確認</li> </ul>	

- ・耐性菌発生状況の把握とアウトブレイク介入基準に基づく介入および血液培養陽性患者の把握と評価
- ・広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬使用患者のモニタリングと抗菌薬適正使用の評価
- ・感染対策に関する介入を要した事例の部署別ミーティングの実施
- ・院内Web内の感染対策ホームページの掲載、ICT/AST NEWSの発行、感染対策情報の回覧等による感染情報の提供
- ・感染対策ポケットマニュアルの作成と配布
- ・抗菌薬適正使用支援ポケットマニュアルの作成と配布

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容 :</li> </ul> <p>2024年5月22日 第1回医療安全講習会（当院における医薬品安全管理について～医薬品の適応外使用や薬剤部・病棟での取り組み～）      2024年6月19日 第1回感染対策講習会（抗菌薬適正使用：広域スペクトラム抗菌薬、耐性菌）      2024年12月13日 第3回感染対策講習会（抗菌薬適正使用：抗菌薬のデエスカレーション、TDM）</p>	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成（有・無）</li> <li>手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :</li> </ul> <p>医薬品安全使用のための業務手順書第13版を定めている。      各部門にあわせたチェックシートを作成し、医薬品安全管理・使用の確認を実施している。不適切な事例が確認された場合には、該当部署にその都度フィードバックしている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</li> <li>未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</li> </ul> <p>①未承認医薬品      当院では薬剤管理委員会で審議している。      アシクロビル耐性ヘルペス角膜炎に対するトリフルオロチミジン点眼液1%の使用に関する申請があり、承認された。実際には使用されなかった。</p> <p>②適応外使用      当院では診療倫理委員会で審議している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眼筋型重症筋無力症に対するセルセプトの使用</li> <li>難治性咽頭乳頭症に対するHPVワクチンおよび手術併用療法</li> <li>腸リンパ管拡張症に対するサンドスタチンの使用</li> <li>進行期乳房外パジェットに対するTS-1の使用</li> <li>局所麻酔薬の分割使用</li> <li>家族性血球貪食性リンパ組織球症に対する前処置(FLU+Targeted BU+Alimutuzumab)</li> <li>統合失調感情症に対するクロザピンの使用</li> <li>進行期乳房外パジェット病に対するドセタキセル療法の使用</li> <li>難治性血球貪食性リンパ組織球症に対するルキソリチニブの使用</li> <li>パーカー・フーリー・カーボンの術後眼内留置</li> <li>難治性回部分発作重積型急性脳症に対するトシリズマブの使用</li> <li>難治性回部分発作重積型急性脳症に対するイソフルラン吸入の使用</li> <li>難治性回部分発作重積型急性脳症に対するケタミン持続注入療法の実施</li> <li>難治性若年性皮膚筋炎に対するJAK阻害薬の使用</li> <li>食物蛋白誘発性胃腸炎による反復嘔吐に対するオンダンセトロンの使用</li> <li>卵巣漿液性境界悪性腫瘍の再発症例に対するホルモン療法</li> <li>小児クローン病患者に対するウステキヌマブの使用</li> </ul>

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 薬剤師による処方監査・処方確認および入院患者への処方確認時に使用目的を確認し、必要に応じて疑義照会および処方確認を実施している。
  - ・ 病棟担当薬剤師が診療科カンファレンスに参加し患者の薬物治療について情報収集し、適応外使用の可能性がある場合には医薬品安全管理室や医薬品情報管理室薬剤師とその都度情報を共有している。
  - ・ 適応外使用の予定がなされた場合、診療倫理委員会事務局から医薬品情報管理室へ個々の適応外使用のリスクについて相談する体制を取っている。医薬品情報管理室から病棟担当者や調剤室など関連する部門へ適応外使用の情報を共有している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 63 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>7種の機種（本院は診療用粒子線照射装置を持たず）を含む医療機器の有効性や安全性、使用法、保守点検、不具合発生時の報告手順、法令上遵守すべき事項の確認を中心に実施した。</p>	
<p>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容 :</li> </ul> <p>機器に添付される取り扱い説明書を元に、記載された点検項目に従い点検を実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば） :</li> </ul> <p>・ その他の改善の方策の主な内容 :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①集中治療室（ICU）の24時間日当直体制を実施し、一般病棟を含む医療機器に関連した問い合わせの連絡があった場合には、直ちに対応可能な体制としている。</li> <li>②病棟等で使用する人工呼吸器の使用中点検を中心に、各病棟を臨床工学技士が巡回している。</li> <li>③各病棟から医療機器を回収するスタッフを配置し、使用終了直後に医療機器を回収し、効率よく医療機器を運用している。</li> <li>④新規医療機器購入前から、医療機器管理部スタッフ1名以上が選定に関わり、安全性や操作性等について評価して購入を行っている。</li> <li>⑤医療機器に関する安全情報を収集し、該当する医療機器があるかを確認している。該当する機器がある場合には、医療機器管理部スタッフから関連する多職種スタッフへ情報の周知や対応のアナウンスを実施している。</li> <li>⑥新規医療機器に関する説明会を使用するスタッフへ広く受講できる様、e-learningシステムを積極的に活用している。</li> </ol>

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 · 無								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>「浜松医科大学医学部附属病院医療安全管理規程」を定め統括しています。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 6 名 ) · 無								
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況           <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の整理は薬剤部医薬品情報管理室にて実施している。</li> <li>・情報の周知は添付文書改訂の通知を定期的に実施している。また医薬品安全性情報等の通知および当該医師への伝達、DIニュースの発行などを必要に応じて実施している。</li> </ul> </li> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況           <ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認薬等による治療が必要になった場合、治療を実施する医師は薬剤部に照会する。また、病棟担当薬剤師が各部署への照会を仲介する体制もできている。</li> <li>・病棟業務や調剤時などに薬剤師が確認した際は医師に疑義照会などを実施している。</li> <li>・未承認等の医薬品(院内製剤を含む)の使用にあたって、薬剤管理委員会(未承認新規医薬品の担当部門)は、評価委員会からの意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の適否、使用条件等について決定し、病院長の承認を得る。また、未承認新規医薬品等使用状況について事後検証し、その内容について病院長に報告する。</li> </ul> </li> <li>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 · 無)</li> <li>・担当者の所属・職種 :           <table> <tr> <td>(所属 : 薬剤部 , 職種 薬剤師 )</td> <td>(所属 : , 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種 )</td> <td>(所属 : , 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種 )</td> <td>(所属 : , 職種 )</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種 )</td> <td>(所属 : , 職種 )</td> </tr> </table> </li> </ul>	(所属 : 薬剤部 , 職種 薬剤師 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )	
(所属 : 薬剤部 , 職種 薬剤師 )	(所属 : , 職種 )								
(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )								
(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )								
(所属 : , 職種 )	(所属 : , 職種 )								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 · 無								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 · 無 )</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 各診療科より約5冊ずつピックアップしたサンプル調査を実施(サンプル対象は、手術を実施し比較的重症度が高いと思われる症例から抽出)、医療者の同席率とIC後の反応の記録について調査し、診療情報管理委員会にて報告を行った。</li> </ul>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</p> <p>全症例について、入院診療計画書、手術記録、退院時要約、手術説明書・同意書、麻醉記録、アレルギー情報を確認。さらに多職種（医師、看護師、薬剤師、事務）による診療記録質的監査（入院診療計画書、医師記録、看護記録、薬剤記録、インフォームドコンセント等、退院時要約）をサンプル調査にて実施。診療情報管理委員会にて報告を行った。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 所属職員：専従（4）名、専任（3）名、兼任（12）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（4）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容 :</p> <p>医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること。</p> <p>医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。</p> <p>リスクマネージャーとの連絡調整に関すること。</p> <p>医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。</p> <p>医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。</p> <p>医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。</p> <p>医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。</p> <p>医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。</p> <p>病院医療安全管理委員会の庶務に関すること。</p> <p>医療安全に資する診療の状況の把握及び職員の医療安全の認識の状況の確認に関すること。</p> <p>【モニタリングの具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線診断重要レポートに対し検査を依頼した医師が対応したかのモニタリング</li> <li>・ 中心静脈挿入時のチェックリスト</li> <li>・ コードブルー発生件数</li> </ul>	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）</p> <p>・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 活動の主な内容 :</p> <p>病院で行う新規医療技術の導入の申請に対し倫理的・科学的妥当性について審査、確認及び事後検証を行う。</p>	

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用的適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用的適否等を決定する部門の設置の有無（・）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用的適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・）

・活動の主な内容：

当院では薬剤部・薬剤管理委員会を未承認新規医薬品等の担当部門としており、「当院で使用したことのない医薬品であって、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律における承認または認証を受けていないもの」の導入に際して、以下の項目について審査を行っている。

・当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品とを比較した場合の優位性（予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む。）

・未承認新規医薬品等の使用条件（使用する医師又は歯科医師の制限等）

・当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法

・患者へのインフォームド・コンセントの方法

薬剤管理委員会での審議にあたり、未承認新規医薬品評価委員会を立ち上げて意見書を作成し、薬剤管理委員会へ提出している。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 340 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 51 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

収集した情報をもとに、A)外部参加型事例調査、B)院内事例調査、C)M&M カンファレンス、D)部署内検証レビュー、E)医療安全管理室のカンファレンス、F)医師並びに看護師 GRM が検証、G)検証不要に分類し、必要なスタッフで事例検証、問題点を分析、改善策を立案し現場スタッフにフィードバックしている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：広島大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：福島県立医科大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況

助言：リスクマネージャー会議の出席率が60%前後であることから、医療安全管理委員会の決定事項やその他の重要事項の確実な周知の方法と、周知されたことの確認方法の工夫が望まれる。

未承認および禁忌、適応外いずれも使用期間の期限を設けていないとのことであった。そのため、承認後に見直しする機会がないとのことから、期限設定についてご検討頂くことをご提案する。

改善：リスクマネージャーへ繰り返し上記指摘を受けたことを周知した。

当院では、患者個別での審査が多いため、現状では「治療が終了するまで」が期間となっている。一方で、プロトコルごとの審査内容については、内規の変更を含め検討中である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

医療安全患者相談窓口：医療安全管理室

責任者：医療安全管理室長

担当者：ゼネラルリスクマネージャー（G R M）及び病院総務課医療安全推進係長

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

【医療安全講習会】

2回（全職員対象）

【職種・部署別】

新採用職員ガイダンス：1回、新採用看護師研修：2回

看護師採用時研修：e-learning、看護助手採用時研修：e-learning、

看護助手研修：1回、静脈注射院内認定看護師研修：e-learning

新採用・中途採用職員（看護部職員以外）：e-learning

看護職員（育休復帰者）：e-learning

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者 令和7年2月3日 2024年度特定機能病院管理者研修（継続6時間）

医療安全管理責任者 令和7年12月22日 2025年度特定機能病院管理者研修〔初回〕受講予定

医薬品安全管理責任者 令和6年12月9日 2024年度特定機能病院管理者研修（継続6時間）

医療機器安全管理責任者 令和7年1月17日 2024年度特定機能病院管理者研修（継続6時間）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和5年12月に日本医療機能評価機構の病院機能評価 「一般病院3 <3rdG:Ver. 3.0>」を受審した。

・評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況

本院のホームページに認定証を掲載している。

・評価を踏まえ講じた措置

確認審査において引き続き改善が必要とされた①業務の質改善に関する組織横断的で能動的・主体的な改善活動及び②患者の診療情報の一元的な保管管理について、改善に向けた取り組み状況資料を提出し、今後書面審査を控えている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
・ 基準の主な内容	
1. 医師免許を有している者	
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者	
3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者	
4. 本学及び本院の理念に基づいた病院運営を遂行できる者	
・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無）	
・ 公表の方法	
大学ホームページにおいて公表	

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li><li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li><li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li><li>・ 公表の方法</li></ul>				
大学ホームページにおいて公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	特別の関 係
渡邊 裕司	浜松医科大学	○	医学部附属病院長候補者選考会議 規程第3条第1号に規定する学長 が指名する理事又は副学長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
須田 隆文	浜松医科大学		医学部附属病院長候補者選考会議 規程第3条第1号に規定する学長 が指名する理事又は副学長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
山末 英典	浜松医科大学医学部 精神医学講座		医学部附属病院長候補者選考会議 規程第3条第3号に規定する病院運 営企画室会議からの選出	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
中島 芳樹	浜松医科大学医学部 麻酔・蘇生学講座		医学部附属病院長候補者選考会議 規程第3条第3号に規定する病院 運営企画室会議からの選出	<input checked="" type="checkbox"/> ・無

岡部 比呂男	公益財団法人浜松交響楽団		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第4号に規定する学長が委嘱する学外有識者 法人経営や地域の経済・社会について豊富な知見を有する	有・無
毛利 博	公益社団法人静岡県病院協会		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第4号に規定する学長が委嘱する学外有識者 医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・無
海野 直樹	浜松医療センター		医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第4号に規定する学長が委嘱する学外有識者 医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 病院運営における中期目標、中期計画に関する事項（進捗状況のモニタリングを含む。） 病院予算、業務実績報告に関する事項 その他病院運営に関する事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 診療科長・中央診療部長会議で報告を行っている。また、院内ホームページに議事内容を掲載している。</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>）</li> <li>・公表の方法</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付 す)	職種	役職
竹内 裕也	○	医師	病院長
前川 裕一郎		医師	副病院長（経営戦略担当）
中島 芳樹		医師	副病院長（運営・管理担当）
三澤 清		医師	副病院長（リスクマネジメント担当）
佐々木菜名代		看護師	副病院長（患者サービス担当）
黒住 和彦		医師	副病院長（涉外・広報担当）
杉本 健		医師	第一内科主任診療科長
宮入 烈		医師	小児科診療科長
松山 幸弘		医師	整形外科診療科長
山内 克哉		医師	リハビリテーション科診療科長
乾 直輝		医師	臨床薬理内科診療科長
五島 聰		医師	医療放射線安全管理室長
安田 日出夫		医師	医療福祉支援センター長
川上 純一		薬剤師	薬剤部長
増本 一真		歯科医師	歯科口腔外科診療科長
正木 純一		事務	事務局次長（病院担当）

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）  
・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容  
病院長は、病院の業務を総括する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副病院長（経営戦略担当）  
副病院長（運営・管理担当）  
副病院長（リスクマネジメント担当）  
副病院長（患者サービス担当）  
副病院長（涉外・広報担当）  
病院長特別補佐（総務・企画担当）  
病院長特別補佐（臨床研究担当）  
病院長特別補佐（医療DX推進担当）  
病院長特別補佐（地域貢献担当）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
以下の会議・勉強会・研修会等に職員を参加させ、病院のマネジメントを担う人員の育成に努めている。
  - ・ 国立大学病院長会議「病院長塾」（毎年開催）
  - ・ 病院経営次世代リーダー養成塾（隔年開催）
  - ・ 近畿・中部地区病院経営企画担当事務職員研修会（毎年開催）
  - ・ 近畿・中部地区附属病院経営担当課長等会議（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院経営分析ワークショップ（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院課長補佐級研修会（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院係長級研修会（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院主任級研修会（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院初期研修会（毎年開催）
  - ・ 国立大学附属病院若手職員研修会（医療訴訟等含む）（毎年開催）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無				
・監査委員会の開催状況：年 2 回					
・活動の主な内容：					
本院の安全管理体制について外の委員も含めた委員で監査・評価を実施する。					
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無）					
・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無）					
・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無）					
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・無）					
・公表の方法：					
病院ホームページにおいて公表					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
熊田 恵介	岐阜大学医学部附属病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1
坪佐 恭宏	静岡県立静岡がんセンター		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1
小島 崇宏	大阪A & M法律事務所		法律に関する識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1
大磯 義一郎	浜松医科大学		法律に関する識見を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1
左右田 泰丈	曹洞宗 瑞生寺		医療を受ける者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

## 規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

### 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

#### ・体制の整備状況及び活動内容

内部統制システム推進責任者（病院長）は、附属病院の業務における内部統制システム（法令等に適合するための体制及びその他業務の適正を確保するための体制）の整備及び運用を推進するとともに、その整備及び運用状況について、内部統制担当役員等に定期的に報告を行うものとしている。内部統制担当役員等は、内部統制上の重大な問題を発見し、又は報告を受けたときは、速やかに適切な対処を行うとともに、内部統制最高管理責任者（学長）及び内部統制統括管理責任者（理事（企画戦略・研究担当））に報告し、併せて再発防止措置を講ずるものとしている。また、内部統制統括管理責任者から内部統制システムの運用状況が、定期的に役員会に報告され、内部統制システムの整備と継続的な見直しが行われている。

- ・ 専門部署の設置の有無（・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法

大学ホームページにおいて公表

## 規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況			
国立大学法人法に基づき、大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会を置いている。当協議会は、外部有識者の諮問会議の性質を有するもので、大学法人経営の大きなウエイトを占める附属病院の管理運営に関しても意見・助言等を受けている。			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議体の実施状況（年4回）</li><li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年4回）</li><li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li><li>・ 公表の方法</li></ul>			
規程は公表していないが、運営の透明性を担保するため、協議会の開催状況、審議内容、議事録等を大学ホームページで公開している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人浜松医科大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
渡邊 裕司	学長	○	有・無
須田 隆文	理事（企画戦略・研究担当）・副学長		有・無
梅村 和夫	理事（教育・評価担当）・副学長		有・無
三沼 仁	理事（財務担当）・事務局長		有・無
齊藤 薫	理事（経営担当）		有・無
竹内 裕也	副学長（病院担当）		有・無
五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長		有・無
岡部 比呂男	元ヤマハ株式会社常務取締役		有・無
萱間 真美	国立健康危機管理研究機構 国立看護大学校 校長		有・無
加陽 直実	一般社団法人静岡県医師会 会長		有・無
鈴木 俊宏	スズキ株式会社 代表取締役社長		有・無
布村 幸彦	公益財団法人スポーツ安全協会 会長		有・無
御室 健一郎	浜松いわた信用金庫 会長		有・無
毛利 博	公益社団法人静岡県病院協会 会長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・<input type="checkbox"/> ）</li><li>・通報件数（年 0 件）</li><li>・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・<input type="checkbox"/> ）</li><li>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・<input type="checkbox"/> ）</li><li>・周知の方法 大学のホームページ、医療安全委員会、医療安全管理マニュアル、医療安全ポケットマニュアル、病院ポータルサイト等において周知している。</li></ul>

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長(総務・教育担当) 高木 雅弘
閲覧担当者氏名	総務課長 大隅 孝文
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。開示請求を受理してから、30日以内(請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。)に開示又は不開示を決定し、開示請求者に通知する。開示請求者が開示の実施申出において閲覧を選択した場合、当該諸記録の閲覧ができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input type="checkbox"/> ・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
(1) 広報誌による情報発信	
①病院案内（年1回発行） ②「はんだ山の風」（年4回発行）	
(2) 病院ホームページによる情報発信	
病院概要、診療内容、診療実績、医療サービス等	
(3) 市民公開講座等による情報発信	
① 浜松医科大学主催「公開講座」 ② 浜松医科大学主催 地域貢献事業「市民公開講座」 ③ 静岡肝疾患診療連携拠点病院主催「市民公開講座」（年3回実施） ④ 静岡県アレルギー疾患医療拠点病院主催「市民公開講座」（年1回実施）	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input type="checkbox"/> ・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
(1) 造血細胞移植センター、神経・難病センター、腫瘍センター、いたみセンター、リンパ浮腫センター、炎症性腸疾患（IBD）センター等を設置し、複数の診療科が連携して治療を行っている。	
(2) 緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、呼吸ケアサポートチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム、身体的拘束最小化チーム等によるチーム医療を提供している。	
(3) 感染制御センター、医療安全管理室、医療福祉支援センター（がん相談、肝疾患相談、難病相談、退院支援）等多職種が参加した診療・ケアを実施している。	